385
271

10.2.14

385
25

杉浦良太郎著

誰にも出来る鶉飼の手引

385-25

誰にも出来る

鵜飼の手引

杉浦良太郎著

大正
8 4.24
内交

誰にも出來る鶉飼の手引

目次

〔一〕新實用家禽「鶉」

鶉の過去現在及び將來……一

日本古代の鶉……明治維新以後の鶉

鶉の實用的飼養……六

實用家禽としての飼養……本邦家禽界の光榮……實用鶉の現在の狀態

鶉の前途は實用にあり……一〇

啼鶉は趣味を低級にす……實用鶉こそ安全且つ有利

【二】鶉の趣味と實益

愛すべき鶉の飼養……一三

七情を姿態に現す鶉の明敏……平民的家庭の一員として……元氣で强健な事は無類……邪氣を拂ふ鶉の鳴聲

鶉の實利、肉と卵……一七

需要は先づ家鶉に向く……驚くべき鶉の産卵力……鼠算的に迅速な增殖……美味の第一鶉の卵……肺病に特効ある鶉の卵肉

【三】啼鶉と實用鶉の解說

日本の鶉は特有のもの……二四

鶉の屬する動物學上の科目……日本に棲む三種の鶉の分布區域……敏捷輕妙で生意氣で横着……日本鶉の色彩と雌雄の判別……姫鶉と三斑鶉の外觀

野鶉の棲息狀態は何うか……三三

鶉は溫和な氣候を好む候鳥……鶉の棲息地と棲息の狀態……鶉の繁殖……野鶉の卵と雛と壽命

啼き鶉のいろ〳〵……三八

本筋の啼き鶉は非常に少ない……本筋の鶉の啼き方と野鶉……鶉の啼き方の優劣……良き系統のものを選ぶ事……啼き聲のいろ〳〵……野鶉と本筋鶉の判別法

實用鶉の優劣と選擇……四八

實用鶉は本筋と野鶉の雜血……七分五厘雜血と五分雜血……實用鶉の良

否鑑別法……七分五厘もの多産の理由……實用鶉の改良方針と前途

白鶉その他變り鶉……五六

白鶉が固定する見込みあり……鶉の變種は幾つか出る

【四】種鶉の飼養法

鶉を飼養する場所……五九

寒暑と日光と濕氣と風を防ぐ事……鶉舍建築の注意と構造

鶉の飼養に必要な籠と箱……六三

五種の籠と箱の用途……鶉籠の構造寸法……寢蹲箱と砂臺箱……杉浦式の保溫箱……追ひ込み箱……鶉の育雛器

鶉の餌のいろ〳〵……七五

餌の加減一つで自由自在……鶉の餌には何を用ふるか……その他の補食物は何か

鶉の餌の作り方と與へ方……八二

啼きも產卵も餌次第……動物質の多給が肝要……鶉の樣子を見て加減する……產卵鶉には六分餌が適當……餌を常に變化させぬ事……糠粉の調合の割り合……粉の作り方……餌の摺り合せ方……餌の與へ方と夜飼ひ……鶉の食ふ活き餌とその効

管理飼養のいろ〳〵……九九

再び給餌と夜飼ひに就いて……清潔法の厲行と籠……砂浴と沐浴を行ふ事……鶉の換羽と產卵に對する効……脂肪が乘り易い。その注意……啼き鶉の餌の注意……巾着鶉の仕込み方

四季の管理注意……一一三

夏は一番困難な時……乾燥を圖るを第一とす……矢熱を防ぐ日蔭に就い

て……鶉舍の構造と夏……有効な避暑法のいろ〳〵……夏の餌の注意……冬季は鶉の尤も飼ひ易い時……春と秋と梅雨季と秋雨

配合と交尾と産卵……一三三

一雄に配し得る雌の數……鶉の交尾と精卵……交尾の方法と雄の注意……近親繁殖を禁ずる事……卵の良否と外觀の鑑定

健康法及び疾病の治療……一二九

新鮮土と芝草と日光……鶉の病氣とその豫防治療……鶉の元氣を回復するには

鶉の捕り方と飼ひ方……一三八

野鶉を捕る目的……鶉を捕るには霞網を用ふる……野鶉を馴らす法

【五】鶉の孵卵法

種卵に就いての注意……一四三

孵化用卵の選み方……種禽の狀態と種卵の良否……雌雄の配合と雛の雌雄

母雞を使用する孵卵法……一四九

鶉卵孵化にはチャボが第一……巣雞の良否鑑定法……孵卵の準備は斯くする……母雞に卵を抱かせるまで……孵卵中の巣雞の管理法……孵卵中の巣と卵の管理……害虫の驅除と孵卵中の衞生……孵卵中は檢卵を怠るな……孵化に際しての管理と注意……孵出を人工にて助ける方法……母雞を數回續けて使用するには……

鶉卵人工孵卵法……一七〇

人工孵卵は鶉に尤も有利……杉浦式鶉用孵卵器要領……鶉用孵卵器使用法概要

【六】鶏の雛の育て方

雛の假母器養成時代……一七八

育雛成功法の第一の問題……鶏を養成する好期は何時……假母器の準備と育雛室……初めて餌を食はせるには……幼雛の餌の作り方……幼雛の餌の與へ方……溫度と假母器使用法及び期間

親鶏に成るまでの管理……一八七

最早親鶏の管理に移る……大雛時代の餌の注意

目次終

誰にも出來る

鶏飼の手引

杉浦良太郎著

新實用家禽「鶏」

鶏の過去現在及び將來

◎日本古代の鶏

日本で鶏の飼養された歴史は隨分古いもので、雞及び鴨に次で家禽となつたものである。

その王朝時代以前からあつた事は日本最初の歌書たる萬葉集、最初の歴史書たる古事

記にある歌や記事で知る事が出來る。これ等の鶏は野禽として又飼ひ鳥として何れも鳴聲を賞でたものであるが、食用としても貴ばれた事は勿論で、その頃には野生の鶏も非常に多かつた事であらう。

支那の鶏の歴史は明でないが、食用としては古代から却て發達して國時代には皇室諸侯共にこれを飼養させ料理に飲くべからざるものとなつて居たのである。飼養すると云つても家飼繁殖させるのではなかつたであらうが、今でも滿州は有名な鶏の產地で、恐らく多數の野鶏を捕獲し飼養して置いて食用に供したものと考へられる。

日本に鶏の流行した最初は德川三代家光の頃であつたらしい、その以前にも流行を見たかも知れぬが明でない、尤も鶏合せこ云つて二羽の鶏に鬪爭させて遊ぶ事は藤原時代に既に宮中や公卿の間に盛に行はれ、戰國時代を經て豊公の頃にもあつたのである。それが德川幕府の時代に入りて相當の年月も經て、人の漸く泰平に慣れた三代慶安の頃に至つて樂の爲めに大いに飼養されるやうになつたものと思はれる。日本に於て最初の鶏專門書として知れた「鶏書」と云ふのもその時代の版である。

處が此の時代の鶏合せは昔時のと全く異つたものになつて鬪爭を行はせるのでなくその啼鳴の優劣を競ふ事となつた、それが今日の啼き鶏飼養の濫觴と云つて可いであらう。

その當時の鶏の流行は隨分盛なもので、上は諸大名から下は市井の町人まで鶏の一羽二羽飼はぬものもないと云ふ有り樣であつた。阿部豊後守忠秋が鶏に關する逸話は有名な話であるから次に記す事とする。

その頃老中の役にあつて權勢並ぶものゝなかつた阿部忠秋は三代家光の幼時からの傍役で、成人の後は多く用ひられる事となつたが、鶏を愛して金銀の裝飾した籠に入れ幾羽となく飼養して居たのである、忠秋は非常な清廉潔白の人で要路に立つものに有り勝ちな賂略請托の事に曾て應じないので出入りの町人や諸大名も特に忠秋の機嫌を伺ふの余地がないのに閉口して居た。處が或る幕府の御用商人があつて忠秋の鶏を

愛する由を聞き傳へ、これこそと思つて早速江戸市中に名高い銘鶏を買求め、用人の傳手を以て贈つたのであつた。

忠秋はその事があると直ちに飼養の鶏を全部籠を開いて逃して了つた。それは天下の政治を執る身にはかう云ふ私の嗜好があつてはならぬと云ふ事を悟つたからであつた。これは今も名高い話である。

◉明治維新以後の鶏

その後幕府時代には引き續き鶏の飼養が絶えなかつたが、維新の騒動の爲めに一時中絶の姿となつて居た。それが西南の役も治つて漸く太平の時代に入つた明治十二三年頃から再び鶏が好事家の間に行はれるやうになり、十八九年の頃は却々隆盛を極め一羽數百圓の鳥も珍らしくないやうになつて來た。併し昔に較ぶる時はまだ〳〵幼稚で飼養法も嗜きの聞き分けに就いても昔時に及ばざる事遠ものがあつたのである。その上明治以後の流行は昔時のやうな眞の鶏樂よりは流行に乘じて投機的に價格を競り

上げ、その間に奇利を博せんとするやうな惡い風も加りて居た。

併しこの流行もその後下火となつて、大分長い間鶏は僅かに眞の愛鶏家の間にのみ飼はれて居たが、明治三十年頃から再び流行し、三十二三年頃は却て盛になつたが、當時は只嗜き鶏のみであつたので、その終りを全ふする事が出來ず何時となく下火になつて今度は三年ばかり前から再び流行の曙光を見、一昨年あたりより最盛期に入つたのである。鶏の共進會の如きも既に十數回も開かれ、流行は啻に東都の地にのみ止らず遠く關西方面その他の地方にまで及んだ。これが明治維新以來第三回の大流行と云ふべく、最も上等の嗜鶏は一羽千圓以上に上るものさへ珍らしくない事になつたのである。

然るに今回の流行は初め嗜き鶏から起つたのは昔と全樣であるが、一方實用的に飼ふ事が始められた。從來とても鶏は絶好の食用禽として食道樂の間に賞美されたが、それは多くは野鶏であつて家鶏を食用に供する事は余りなかつたのである。鶏を家飼

して産卵させる事は鶏飼ひの何人もがよく知る處であつたに係らず、肉用及び卵用として飼ふ事はなかつたからである。それが今度は實用的に飼はれる事になつたのは鶏飼養上の大革新であると云はねばならぬ。

とにかく鶏の飼養は今一大革新期を經、實用的に發展しつゝあるのは鶏の前途を非常に有望なものとした譯で、維新以後の鶏史に特筆せねばならぬ事蹟である。

鶏の實用的飼養

◉實用家禽としての飼養

前記の通り鶏は日本では古代から飼養され、その技術は非常に進歩して、所謂本筋と稱する純粋の家鶏が作られ野生のものとは判然と區別されるやうになつた位で、その飼養法は種卵を採る時、又雄に啼鳴を發せしめる時には或は人工を以て溫度を與へ或は特別の飼料を與へ夜飼を行ふ等、見るべきものが多かつた。それに係らず食用鶏を養成し、卵をも年中採ると云ふ事はなかつたのであるが、それは一ッには時代がまだ要求しなかつたのと、野鶏も豐富にあつたからであらう。

それが今度の鶏の流行と共に家鶏の肉味が野鶏に勝る事も、躰格も大きくよく肥滿して食卓に上すにも適當である事も料理界に知れ亘るやうになり、且つ狩獵期以外にも潤澤に供給し得る等の關係から一時に實用鶏の飼養業が起つて來たのである。

その結果は啼鶏飼養の技術を食用鶏に應用するの事實となり、産卵の案外に多く、飼料次第では一年三百數十顆に上り、鶏の壽命を念頭に置かぬとすれば二日に三卵を得る事さへ容易な事も分つて來た。一方その雛を養成すれば四五十日にして完成な成鳥となり産卵も初めれば食用に供し得るのは以前から分つて居た所で、只これを年中に行ふの差あるのみである、かくて食用鶏養成の利益の莫大な事が知られたのである

◆本邦家禽界の光榮

西洋でも鶏を養成する事は可成り前から行はれて居た。孵卵器で孵化し人工にて雛を養成して食用に供するのであるが、それは何れも野鶏を馴養してその種卵を用ふるので、日本に於ける如く家鶏の純粋種がある譯ではない。この家鶏のあると云ふ點から見てもその技術の勝れた上から見ても日本の養鶏は世界に冠たるものと云はねばならぬ。

鶏を食用の目的のみから養成する事は米國抔が本邦に先じて居たやうである。併し純然たる家禽として存在するのは日本ばかり、それが從來啼き聲を樂しむ一方であつたのが、茲に一轉期を來して實用家禽として出現する事になつたのである。野禽を馴養し、繁殖を可能ならしめて純然たる家禽としやうとする努力は近來世界の一風潮を成して居るが、日本は先づ鶏に於て成功したものである。これは單り鶏のみの名譽ではなく日本の家禽界の光榮と云はねばならぬ。

◆實用鶏の現在の狀態

現在日本の養鶏界の狀態如何と云ふに、啼き鶏の方面は相變らずの盛況で、東京では數月毎に鶏の共進會が開かれ、鶏試食會抔も催される、鶏書の出づる事恰も「雨後の筍」の如く、鶏の雜誌のみでも東京に現に四種類あり、その他家禽雜誌は何れも鶏の記事を欲く事は出來ないやうになつた。

飜つて實用方面如何と見るに、その實際利益を知り乍ら啼き鶏の巨利あるに眩惑されてその方面にのみ注意を向けるものが甚だ多く、採卵肉用の事業を起すものゝ比較的少ないのは甚だ遺憾である、併し全然それがないのでなく、今は一種の過渡期として種鶏や種卵の販路が多い爲めにそれに心を引かれての結果なので、啼き鶏養成家でも半は卵用肉用を目的とし、又實用を主として啼き鶏を副とする人も二三現はれつゝあるは喜ぶべき現象である。

關西方面では元來の風俗が質實である爲め啼き鶏よりは却て實用鶏を飼養せんとす

る人が却て多い。鶏も雞及ひ鶩のそれのやうに實用的には先づ關西が發達するのではあるまいかと思はれる。

鶏の前途は實用に在り

◆啼鶏は趣味を低級にす

娯樂として啼き鶏を飼養するのは惡い事ではない、寧ろ高尚な良い道樂であるが、併し鶏の新家禽としての意義は實用にあらねばならぬ。啼き鶏を單に娯樂として飼養するのは誠に結構な事であるが、銘鶏を作出して一獲千金を夢みるに至つては鶏も亦禍なる哉で、折角の娯樂も卑しいものになつて了はねばならぬ。

その上啼き鶏の上等のものを得やうとするには第一に系統を選んで、本筋の正しいものから種卵を採るのであるから、一顆の卵、一羽の雛にも可成りの金をかけ、而も必ずしも銘鶏は得難いものである、娯樂としてなら兎も角も利益を思ふての事では危險が多い、殊に鶏流行の中心地を離れては銘鶏も大した價格に上る事は望まれないのであるから、何人もが着手して成功し得るのは實用鶏の飼養であると云ふ事を讀者

第一に念頭に置いて欲しい。

◆實用鶏こそ安全且つ有利

鶏の實益の詳しい事は後に云ふとして、その販路等の上から食用鶏を見ると實に無限と云つていゝので、價格も野生鶏のある時と無い時とに依つて差異があるが、野生鶏よりも少くなくとも五割以上時期に依つて二倍乃至四倍位の價格を保つて居る。それで養成期五十日内外の費用を差し引いても優に利益を見るので、雞の肉用の雄雛又は肉用の鶩の養成に依り得られる程の金額に上るのは普通の事である。雄雛の肉用に供し得るに至るには少なくも三ケ月を要し、鶩は二ケ月以上と思はねばならぬのであるから鶏の短期にして而も狹い場所に多數を飼養し得るのとその得失は云はずして

明である。

實際種鶉でさへも四方八寸、高さ八九寸の籠が適當なのであるから、百羽の種鶉を飼ふも籠代と場所は知れたものである、その上肉用鶉の養成は二三尺角位の追ひ込み式の箱に五十羽以上を收容養成するので、二三段の棚式にしてもいゝのである。

資金も少なく、場所も狹隘で濟むので、普通の住家の一室を鶉の室に當てれば隨ふ多數を飼養する事が出來る。

鶉の利益は養成期間の極めて短かい點にある事を第一に數へねばならぬが、その産卵が年中に亘る事が出來る關係から、鶉の需要の多い時季を狙つて作る事も任意で、いよ〳〵利益を增進するのである。

(三) 鶉の趣味と實益

愛すべき鶉の飼養

◆七情を姿態に現す鶉の明敏

鶉と云ふ家禽は凡ての鳥類の中で尤も愛らしいものゝ一ッである。否隨一であると云つて過言であるまい。それは多くの家禽は人に馴れ親んで、一旦飼養すれば愛情の盡きぬものがあるが、鶉に至つては人に馴れ親しむ性が尤も强く、昔の或る愛鶉家は印籠の中に入るやうに鶉を仕立てゝそのまゝ持ち廻りては愛玩したと云ふ話がある。又巾着鶉の仕立て方は後に詳述するつもりである。

それに鶉は却々明敏な頭腦の所有者で、且つその感情を巧みに姿態に現はすものである。鶉の容子を眺めて居ると實に可憐な態をしていろ〳〵と物に感じたり考へたりして居るのを知る事が出來るのである。それを見て居る親しみと云ふものは又格別で到底門外漢の覗ひ知るを許さぬ處である。

◆平民的家庭の一員として

かう云ふ小鳥であるからその啼聲を嫌しひのでなく只卵を採る位の事なれば普通の鶏籠でなしに三尺角又はそれ以上の廣い庭籠に飼ふ事とし、籠内には芝草を植え餌を與へるやうにして置くと、雞抔よりも一層自然の情趣を味はう事が出來る。そして卵もよく產み健康に何年も生活するものである。

家庭に雞や犬やその他の家禽家畜を愛養する事は小供の趣味敎育の爲めに非常にいゝ事であるが、庭の狹い家抔では雞も鍬に飼ふ事が出來ぬ事がある。そんな時には軒下抔に小さい庭籠を設ければ數十羽の鶏を飼ふ事も出來るので、家族の使用する卵抔は剩る程に容易に得られるのである。

又鶏は雞よりは清潔に飼ふ事が出來、餌料抔も大仰な準備も不必要である上に極めて靜かな家禽で、狹い庭で朝から騒ぎ立てるやうな事もなく、旁々主人公の職務の勞れを醫する爲めにも可い娯樂になる。

以上の點から見ても鶏は眞に平民の家庭的家禽として推稱するに足るものであると信ずる。

◆元氣で强健な事は無類

鶏は滿十六日で孵化するもので、雞に比して五日間短かい丈けであるが、その發育は驚くべく迅く普通三週間位で羽毛が畧々整頓し、四週間を經ればそろ〳〵鳴き始め、七八週間頃には產卵を始めて、その卵は間もなく種卵に供し得るものである。その迅速な事は直ちに實利あるを語るものであるが、仝時に小兒等の敎育材料として尤も適當して居る事を知るのである。

その孵化して發育し行く狀態も實に面白いものである。元來非常に强健であるから少數の飼養では容易に死ぬやうな事もなく、孵化して十五分か二十分も經ると最早起き上つて元氣に馳り廻ると云つた風である。そして雞の雛仝樣羽毛も初めから生えて居るので餌を與へるにも雞の雛と仝じで可いのである。

孵つてから二十時間目後で飼を與へるがその頃には益々元氣ら汪盛で盛に育雛器内を跳ね廻つて居る。そして前記の通りの時日を經れば親鳥になつて了ふのであるから實際經驗のない人には嘘のやうにも思はれる位なのである。

◆邪氣を拂ふ鶏の鳴聲

昔は鶏の啼聲は邪氣を拂ふと云ひ傳へ、却々勇壯なものである。その啼き方にはカツコロ〳〵と云ふ風のと、グワツゴロ〳〵と云ふ調子と二通りあつて、前者は啼き鶏としては全く零であるが、啼鳴を撰しむのでない實用目的の人又は庭籠杯で飼ふ人には何れでも可いのである。

今も云ふ通り鶏の鳴き聲は却て壯快で聲の良否に係らず庭先ら抔で鳴いて居ると陰氣な氣分は一掃されて了ふ位である。而も雞のやうに肝高でなく、又甚しく大聲に過ぎて五月蠅いと云ふ樣な事はない。

もし此の啼鳴に趣味を持ち初めるなら、鶏の嗜好は一層加つて、遂には千金惜しからずと云ふ事になるのであるが、余り深入りはしない方が可い。そして又かゝる銘鶏が幸にして千羽萬羽中に出來るものなら、その雛、その稚卵の希望者は門前市を成して、恐らく忽ちにして巨萬の富も成すに難くはない、實際さう云ふ例もあるのである。

鶏の實利、肉と卵

◆需要は先づ家鶏に向く

鶏の發育の迅い事は前に云つた、そして産卵の非常に多い事も述べた。この産卵の多く從つて繁殖の容易なと云ふ事は實用の家禽として最大の條件であり、發育の迅速と相俟つて鶏の飼養の有利なるを示して居るが、今その鶏の食用としての需要如何を見ると、燒さもの又は煮物としての日本料理、丸物又は燒さ鳥その他の西洋料理、何れも家鶏の需要は極めて廣いものである。

野鶏が盛に出て來る時にはこれに壓迫されるを免れないが、それでも野鶏の二三十錢の時に五十錢位には價して居るのである。そして野鶏が全くない時には一圓五十錢位にも上る事がある。而も食用として野鶏の肉乏しくとも小さく、味も劣るのに比して家鶏は凡てに勝れて居るから、よしんば野鶏が多く出ても家鶏さへあれば需要は先づ此の方に向くものである。これ鶏飼養の安全に行はれる點である。

◆驚くべき鶏の産卵力

鶏は五十日位で産卵を始めるが、その後管理と飼料次第で二日に三卵ゝ産ませる事が出來る位である、普通には一日一卵の程度に餌を加減して飼養するが換羽期を除く外は右の連續産卵は容易に繼續せしめ、ヨが出來るものである。一年三百二三十の産卵ゝ決して不合理でなく不可能ではない。二百五十顆位の産卵は實に普通平凡事となつて居るので、三百卵以上を産ませる綿密な注意が面倒である爲めにいゝ加減にして置くと云ふに過きぬ位のものである。

鶏の壽命は十二三年であるが、その尤も多産するのは三年間位である。そして換羽は巧みに行へば十六七日で濟ひのであるから、も！鶏を極端まで産卵せしめやうと云ふ事になると實に驚歎すべき能力を現はし、神の戯れもこゝまで來るかと啞然たるばかりである。

二日に三卵を産ます事は決して難事ではない。只普通に管理して餌を強く八分餌位に且つ微夜飼ひをするまでゞある。併し前にも云つたがかゝる無理な産卵をさせると壽命が大變短かく大低一年か二年で斃死するものなのである、それで二日三卵と云ふやうな事は只鶏の如何に多産するものであるか、そしてその多産が實に機械的に只強い餌を多量に食はせればそれで可いものであるかを知る例証とするに止めるが可い。

◆鼠算的に迅速な増殖

前にも云ふ通り鶏の健康は無比で、早熟な事もその類なく、多産卵なるは全く家禽中に卓出して居るので、この三ッの特長を完全に利用して繁殖を圖るならば、僅か一

番が一雄二三雌の鶏も一年も經る頃には驚くべき大多數に繁殖する事が出來る、世に繁殖增加の多いものを鼠の繁殖に例えて鼠算抔と云ふが、鶏は到底鼠算處の騒ぎではない。

茲に一羽の雄に二羽又は三羽の雌を所有するとする。その卵を全部孵化して行けば十六日で孵化し五十日で成禽となるので二ヶ月半も經た頃には親鳥丈けでも數十羽になつて了ふ。その卵を益々孵化養成するとすれば半年後には最早千を以て數ふべき程である。

だから養鶏に着手するには初めは三羽か五羽位で充分である。そしてもし人工孵卵器を用ふる事が出來れば、鶏卵は比較的保存に耐え孵化も良好であるから十日間以上を經たもので差し支へない。それを十六日毎にずん〳〵孵化して行つても、雛は極めて强健で、雞の雛抔に比する時は遙に育ていゝので、引き續き育雛を續いて行く事にしても大丈夫である。猶拙本書に記した育雛器を用ふれば鶏の雛の養成に失敗するやうな事は先づ以てないのである。

◆美味の第一鶏の卵

鶏の卵は一種の藥効があると云ふ事は昔から云ひ傳へて居る。肉にも藥効があると云ふがこれは卵程ではないらしい。實際鶏の卵を食つて見ると一種の滋味の深い事到底雞卵の比でなく、美味を以て知られた七面鳥の卵にも遙かに勝つて居るのである。

鶏の卵を料理し又蒸でゝ食つて見ても鳥渡味は分らない、只濃厚な味であると云ふ事は幽かに感ずる位のものである、處が鶏の卵を三日五日と食ひ續けてさて雞の卵を全樣に調理して食つて見ると驚く、雞の卵は全く豆腐を嚙むが如く、何の味もないやうな氣がするであらう、小兒等に鶏の卵を食ひつけさせると、最早決して雞の卵を食はぬ位になつて了ふものである。

斯くの如く滋味に富む鶏の卵は假令科學的に藥効を發見し難いものとしても、營養の効の勝れて居る事は疑ひない處である、全じ雞でも、兼用種や地鳥、シヤモに比

して卵用種の卵は黄味も小さく、蛋白も薄く且つ水つぽい事は人の知る處で、それ丈け味劣つて居る。併しこれは飼料の關係にもあるので、美卵を以て知られたシヤモチヤボの如きも採卵用雞仝樣の練餌を與へれば、卵の品質は大に劣下するものである我が鶏の卵の美味なるは一ッには非常な美食を與へるのに原因して居る。

肺病に特効ある鶏の卵肉

鶏の卵が美味であるのみならず、藥効があると云ふ事は事實としてその道の人に認められて居る。その第一は身躰の衰弱する諸病で殊に肺病の特効藥として疑ひを容れぬものがある。何故にこの藥効があるかと云ふ事はまだ明でないが、單に非常に濃厚な營養分を含有して居ると云ふ丈けではないらしい。かゝる傳説には必ず相當に據り處のあるものであるし、事實鶏の卵を盛んに用ひた結果肺病の全快した例はあるのである。

天地の間には今日の科學を以て説明し盡されぬものが非常にある。維新以來科學の輸入と共に科學萬能の思想が彌漫したが、彼の進化論を創説して生物學の基礎を根抵から改革したダーピンさへ、晩年には生物の進化と我が進化論の原則のみを以ては説明し難い處があると云つて嗟歎したと云ふ。一般の學者が單純に迷信であると云つて罵倒して了ふ處にも迷信ならぬ不可解の事業は多いのである。自分は長い間岡田式靜產法を行つて居るが、その靜產に身躰の盛に震動すると云ふ平凡な事實さへ今日の科學は決して説明する事が出來ないのである。我等今日の科學を超過した或る力の存在を認めなくてはならない。

鶏の卵の肺に特効のある事も事實がこれを証明する以上、單に營養分が多いからである抔と淺薄な説明では滿足出來ないのである。そして肺病に特効のある位であるから發育中の小兒や、營養巡還の乏しい老人や、その他病人妊婦抔には尤も適當した營養品と認める事が出來る、この一事でも雞と共に家庭の飼養を勸めたいと思ふものである。

以上は卵に就いてゞあるが、鶉肉も全樣の効あるものとして今や賞用されつゝある事を茲に云ひ添ゑて置く。

(三) 啼鶉と實用鶉の解說

日本の鶉は特有のもの

鶉の屬する動物學上の科目

鶉は世界到る處に繁殖する小禽で、その屬する科目を見ると、脊推動物、鳥類、新鳥亞類、深胸類、鶉雞目に屬し、卽ち鶉と雞とは極めて性能の近いものである。從つてその飼養法の如きも雞殆ど何等の差異がないと云つて可い位、只鶉は小禽なるが故に飼料の調製にもそれ丈け手數を要するのと、雞よりも一層機械的に飼料の加減一ッで產卵を自由に爲し得る等の相違があるのである。

右の如く鶉は鶉雞目に屬するが猶ほ雞とは區別して、鶉科を三斑鶉亞目の二に分類し、此の二ッの分類中に各々幾つかの種類が成り立つて居る。そして日本に居るのは印度三斑鶉と鶉亞目中の鶉及び姫鶉の三種である。

此三種のうち印度三斑鶉は日本の西南部から南洋印度方面繁殖し、姫鶉は鶉と殆ど全種であるが、日本では多く臺灣に棲息して居るものである。それで普通にうづらと稱へて飼養されるものは鶉亞目中の鶉なのである。

海外の鶉の事を說明すると長くなるから、凡て省く事とする、併し近年米國抔で繁殖するものは矢張り鶉亞目中に屬し、日本の鶉に極めて近似のものなのである。

◆日本に棲む三種の鶉の分布區域

鶉は今も云ふ通り世界到る處に棲息する小禽で、歐洲、米國、亞弗利加にも棲み、

手近かの處では亞比利亞及び支那にもある。亞比利亞のものは少し種類が異るが、支那のそれは全く仝じものであるらしく思はれる。殊に滿州、山東のものとは少しも異る處はない。

併し日本の鶏は前にも云ふ通り既に家禽として成立して俗に本筋と稱する純種が數百年の系統を維持して居るのであるから、これは全く日本獨特のものと云ふ　出來る。否單に獨特のものと云ふばかりでなく、家禽としての品位、實利上の價値から云つて特殊の地位を占め、正に世界一のものなのである、米國のものゝ如き家に飼つて繁殖するのは仝じであるが、その飼養法、雛の養成法の如き何れも野禽としての取り扱ひをなし、産卵も一年百顆に充たぬ處は日本の野鶏を子飼ひした程度のものであるらしい。

姫鶏は日本鶏と殆ど仝樣であるが日本領域では多く臺灣に棲息するもので九州邊まで來る事もある。その他印度、錫蘭島に及び、支那の南部、海南島、安南、暹羅等に

も繁殖分布して居る。

印度三斑鶏は前も一ふ通り鶏や姫鶏と科目を異にし、三斑鶏亞目のうちの一種である、日本内地には余り居ないが九州邊には來る事もあり、琉球臺灣以南に棲息するものである。

◆敏捷輕妙で生意氣で横着

次に鶏の外見を述べて置く事とする。これも日本鶏のみに就いて詳く一ひ、姫鶏や三斑鶏は極く簡單にして置く。

人も知る通り鶏の大さは僅に大人の拳骨位で、それも余り大きい拳骨ではない、頭が小さく頸は短かく、胴になつて急に太くなり、尾は極めて短かく尻の方でプツリと切れたやうに終つて居る、小形の一輪差しを斜にして脚を附けたとでも云はうか、可憐と云へば可憐であるが鳥渡滑稽の感がないでもない。

擧動は却々敏活で經捷であるがその解人を馬鹿にしたやうな大膽なのか一種横着ら

しい風がある、野鶉でも人が近附いても容易に立たず、不意に脚下から飛び立つのは人の知る處で馬鹿かと思へば決してさうでなく、要するに大膽の方なのである、要するに風雅な脫俗した憚味があつて、生意氣らしい可憐さがあり、敏捷輕妙であつて而も横着と云つた何しろ一風變つた處があるのである。

その啼き方の如きも少しも甲高い處がなく落ち着いて一種人を食つたやうな、人の思惑抔は頓着しないと云つた風の處もあるのは面白い。

◆日本鶉の色彩を雌雄の判別

鶉の大きさは大躰前に云ふ通りであるが、これを詳しく云ふと嘴端から尾端まで體上を通過して一直線を引いた長さは五寸五分位、嘴の先さから基部まで仝上一直線を引けば三分五六厘、頭の長さ卽ち嘴の基部から後端までの一直線は一寸未滿、翼の長さ卽ち肩の屈曲した處から主翼羽の先さまでが五寸二三分、腿から脚脛の下・中趾の基部まで一直線を引けば一寸弱、趾の長さ（中趾）七分强と云つた處で、もとより羽毎に多少の差違はある。

又その色彩は却々復雜で、大躰を云ふと顏及び頭から脊、腰、尻まで脊部及び外部に面した方は黑褐色を量し、猶ほ仔細に視ると細長い三角形の灰白又は黃白色の縱斑が稍々規則正しく積さその間に蒼褐色及び赤褐色の横斑が程よく混在して居る。これ等は何れも頸部の方は細かく、頭では三條の線となり躰部は粗くなつて居るが要するに大躰この數種の斑が集つて一見黑褐を呈する色彩を現はして居るのである。

又躰の側面は色がすつと明るく赤褐色の地色で、縱斑の巾が廣くなり、黑色の斑點が散在して居る。

以上は雄も雌も仝じであるが、雌雄で羽色の異るのは身躰の下面で、雄は腮が美しい赤栗色を呈し、胸も雌よりはずつと赤褐色を呈する、雌は腮の赤栗色が淡くて胸へかけて白褐色を呈し、腹へ行くに從ひ雌雄とも灰白色に漸次に淡くなつて居る。鶉の雌雄の鑑別は外見ではこれ丈けである。

猶は知らねばならぬのは鶉を充分に飼ひ込んでその生殖期に近づいて來ると喉の邊りの色が美しく柿色に濃くなり、その時期を過ぐると淡くなつて了ふ事である。そしてその時には眼の周圍顏面から喉が腫れたやうに膨らむものである。

詳しく云へば際限がないがそれは一羽の鶉を飼つて注意して見れば卽座に分る事であるからはさまではと思ふてこゝらで筆で擱く事とする。

◆姫鶉と三斑鶉の外觀

臺灣產の姫鶉（その分布は前に云つた）は日本鶉に酷似し只躰格が少し小さい丈けであるやうたが、實は日本鶉に似て居るのはその雌の方丈けで、雄は全然異つた羽色を有つて居るのである。但し形は矢張りよく似て居る。羽色は地色が灰靑色を呈し、顏、頸の側面、胸の兩則、尾筒までこの地色で占められ、頭の上部から脊は褐色、尾は栗色を帶び、主翼羽（風切り羽の長いもの）は淡褐色、腹の方は濃い栗色である。そして黑色の斑が橫斑と蝕のやうな斑とが脊の一面及び主翼羽、副翼羽に散點して居る。顏には眼の上に白色の眉斑がある。頰は白地に黑い斑を取り、腮から喉には長目の黑斑が散點し、頸には白色及び黑色の頸輪がある。

雌の地色は褐色を帶び黑斑は凡て雄よりも明瞭で、羽の軸の黃白色は雄よりも鮮明である、そして胸部、躰側、腿等に黑褐色のの黑點があり額から眉、頰の邊は淡黃色を呈し、喉、前頸部は黃白色、腹部は淡黃褐色である。

鶉の嘴は俗に虫食ひ嘴と云つて細く尖つて居るが、日本鶉、姫鶉は格好よく彎曲して居るに對して印度三斑鶉の嘴は一層細い。且つ脛の形が稍々高くて殊に趾が前の三本だけである。鶉及び姫鶉は前に三本後方に一本ある事雞抔と全樣である、これが印度三斑鶉の尤も特異の點である。

此の鶉は日本鶉よりは稍々小さく姫鶉と畧々全樣で、前記の如く少し脚が高く上面の羽色は赤褐色の地色に黑色の橫斑があり、胸から腹の地色は黃褐色で胸に黑斑がある。翼は覆翼羽の邊は黃褐色に太い黑斑を散點し、主翼羽の附近は細い白色の斑のあ

る淡黒褐色である。そして雄は腮と喉とが白く、雌は腮から喉の中心に純黒色の太い線がある。

印度三斑鶉の特異の點として珍らしく思はれるのは其の卵を孵化し雛を養育するのは必ず雄がする事であらう。産卵數が必ず四顆宛に限られる事、雌が雄よりは大きく美しい事抔も異つた點である。

野鶉の棲息狀態は何うか

◆鶉は温和な氣候を好む候鳥

日本の鶉は前に云つた如く日本の内地、西比利亞の一部、滿州、山東邊に分布して居るが、日本内地では九州から北海道までその棲息を見ない所はない。

併し大躰から云ふと寒氣及び酷暑を嫌つて常に暖和な場所を選んで棲息繁殖するのである。それで彼の雁の如く鶉も候鳥の一種で、暖季には北に向い寒くなれば南方へ移るであるから、季節に依つて一地方に鶉が群集するが、その時季を過ぎると何れへかへ移つて影も形も止めないやうになる。併し候鳥の特性に依り氣候を追ふて遷移するにも、燕の如く夏は北方の或る地方に居を定め、冬は又南方の一定の場所に巣を作ると云ふやうなのでなく、年中漸次に南から北に移り、北から南へ、何れも漸次に余り長くない距離の處を幾段にも變つて行くやうである。それで冬になると四國九州が行き止まりなのでその邊に群集し、九州鶉、四國鶉の名で京阪地方へ送り出されるのはそれである。それから春に向ふと共に北方へ移つて、三月頃には畿内邊に群がり、四五月頃は富士を中心とした邊に集り、盛夏の交には東北から北海道に行き、秋になるとこれを逆に戻つて來るのである。

◆鶉の棲息地と棲息の狀態

鶉は地禽類に屬すること雞、雉ど等しく、平素地上を馳り歩いて樹上に上るやうな事は余りない、主に草の多い平原又は高原を好み、殊に南を受けた暖かい傾斜地を選んで棲息する。九州や、四國邊の高原、富士の裾野抔は尤も鶉の愛する棲息地で、そこではよく孵化繁殖もするのである。

又鶉は雜食の禽類であるが野生の時は好んで虫類を捕食し、別に草の實抔を食つて生活する。そして朝と夕方とには群れ立つて飛ぶが、その間盛んに啼鳴して雌雄相生殖み營むものである。晝間は草の間をコソ〳〵と靜かに併し敏速に馳り廻つて餌を捕るが、その時の態度は只敏捷にして靜かだと云ふの外はない、軟かい草さへも蹈み超えて進むやうな事はなく、草と草との間を摺り抜け馳り歩いて居る。

夜になると夕方一としきり騒いだ後は靜かに草叢の間に閉ぢ籠つて眠りに就くので決して濫りに動く事をしない。夜間遠方に飛んだり餌を漁つたりするやうに云ふものあるのは誤りである。

併し場所を移つて行く時でも晝間は余り飛ぶものではなく、必ず夕刻か、時には朝のうちに大多數が擧つて飛び立ち低く地に面して一直線に、且つ非常な速力を以て飛んで行つて了ふ。そしていよ〳〵日が暮れかけて視力の乏しくなると共に行き當りに草原等に降りて就眠し、翌日直ちに又は數日を經て又或る距離を飛ぶと云つた風である。そして夏は津輕海峽を、冬は瀬戸内海を容易に渡つて往來するのである。

鶉の趣力の強い事はこれで知れるが、歐洲抔でも冬になると歐洲の南海岸に集つた鶉は天候を見定めて一直線に地中海を超えて阿弗利加に渡るのは既に有名な話である日本でも滿州、山東邊の鶉内地に往來して居るのかも知れない。

◆鶉の繁殖

鶉は野生の時は必ず一雄一雌の配分を守るものである。もしその倫を亂すものがあると仲間の鶉は手苛い制裁を加へるものだと云ふ、この事は古い云ひ傳へで候鳥には よくある習性だから事實であらう、家鶉としても此の習性は抜けず、一雄に數雌を配

するにも必ず別々にしなくては交尾して有精卵を產ます事は出來ない。

鶉の生殖、繁殖は春秋二回である、矢張り草原中の草叢抔害敵の鳥渡發見難い場所に巣を營むので、先づ土を少し凹形に堀り、その中に枯草抔を敷いて比較的簡單な巣を後ける。そして一季の產卵は概ね十二三個乃至十四五個の間である。

前にも云つたが、鶉は夕刻頻りに啼鳴を發して騷ぐ事があるが、それこそ鶉の生殖時なので、その他の時には余り啼く事はないものである。それで鶉の啼のを聞いたなら、その棲息しさうな原野を探して先づ鶉の糞を見付ける、その糞が新しひものであれば必ずその附近に鶉の巣があると思つてよいのである。季節は概ね春の三月から六月中旬までと、七月中旬から九月下旬頃までの二回但し地方に辰つて少しく異るものと思はねばならない。

右のやうに春の彼岸から秋の彼岸までが鶉の繁殖期であるが、鶉に依つて遲速が出來るから夏の初めに一ヶ月程扱ける丈けで後は大抵啼き續け從つて殆ど交代に繁殖し續けて居る、そして一羽の雌鶉は春秋二回各十數個づゝを產卵し且つ孵化養する事前に記す通りである。

◆野鶉の卵と雛と壽命

卵は大躰に於て家鶉と大差なく、外面一樣に蒼灰色を呈し、それに暗褐色にて少しく殼に透明を與へるやうな感のある斑がある。この斑は一般野鳥の卵と等しく鈍端に比較的多いもので、保護色の用を爲すものであるは疑ひない處である。

大さは鶉の年齡と個性に依つて差異があるが、大躰を平均して長さ九分二三厘、横の一番太い部の直經六分四五厘である。殼は割合に厚く卵の全重量は一顆三匁位である。

この小さい卵から孵化した雛は實に小さく大人の拇指の頭位よりない。それに四肢を備へて孵化するや間もなく飛び起き活動を初めるのは滑稽でもあり又一種の奇觀と稱すべきものである。

かくてすん〳〵發育して三四十日を經れば殆ど親鳥と仝じ大さに成長し、親鳥と共に他の地方に移つて行くのである。雛孵化した當時から成長するまでの羽色や脚の色抔は家鶏と大差なく、大躰上少し濃い位のものである。これは後章に於て説明するから參照して貰ひたい。

鶏の壽命は何年位か判然とはしないが、併し比較的長命のものであるのは疑ひなく家鶏でも二十年位に達する事もあり、十二三年と云ふのは普通である。野鶏は勿論これより長くても短かいやうな事はなひであらうと考へられる。啼き鶏ではその啼鳴の完全に定まるのは三年と云ふ位で極めて早熟なる割合にこれらは長くかゝるのも妙である。

啼鶏のいろ〳〵

◉本筋の啼き鶏は非常に少ない

啼き鶏飼養、鑑定等は却々むつかしいものである。それを詳しく記すと本書一卷の全部を以てしても足れりとしない程である。而もその啼き鶏に就いて正確な智識と經驗を有つた人は殆ど晨の星の如く、數ふるにも足りない有樣で最近俄かに名を出して鶏の大家顔をする人にも隨分怪しいのが多いのである。現今とにかく眞個に啼き鶏の事が分るものは東京中澁谷の田丸庄吉氏位のものであらうと云ふ事である。且つ啼き鶏の飼養は純然たる環樂であつて、只鶏の生活狀態を見て愛しみ、又實利的に飼養すると云ふのとは目的に於て異るものとして、且つ自分の專門外として茲には簡畧に記すに止める事とする。

元來啼き鶏の眞の本場は讃岐の高松である、彼の本筋鶏と云ふものは高松で固定されて、江戸その他に移り繁殖されたものである。それが明治維新後全く養鶏が廢れてから、殆ど跡を斷つやうになり、東京は勿論本場の高松でさへ本筋物の啼き鶏はないと云つていいやうになつて了つた。それを此の數年愛鶏家が非常の苦心にて本筋物を發

見し、漸く少しく繁殖したやうな次第である。それで今家鶏とか啼き鶏とか稱して賣つて居るものも九分九厘までは野鶏との雜血であつて、本筋の血液は實に少ないのである。

現今鶏の共進會抔も屢々催され、啼き聲抔に就いても頻りに論せられるやうになつたが、昔の鶏の事を思へば到底問題にならぬ程劣等なものであるさうな。それを知るものも知らぬものも、鶏はこんなもの、又此の位ならまあ〳〵位の處でやつて居るのである、他愛ないと云いば他愛のないやうなものであるが、今の處何とも致し方はないし、昔の啼き鶏でも元來は野鶏から馴致養成したものであるから今日の劣等な啼き鶏もやがては立派なものになる時もあらうし、世人も段々に啼鳴を賞美すべき本筋鶏と實用鶏との區別を判然と知りてそれ〳〵の方向に改良もされ進歩もする事と思ふ。

◆本筋の鶏の啼き方と野鶏

鶏の啼き聲は底到狭い紙面には盡されぬ處のもので、一羽毎に變化のあるもの、且つその上下に到つては實際の場合に臨んでも優劣は附け惡い事さへある。今その大略を記して見ると、本筋の啼き鶏は必ずゴッゴッ、ゴーロ、コーロ、ゴロ、ゴロと云つた風に一聲毎に判然と區切りを附け、而も終りの方は長く余音を引いて消ゑて行く。これを二三回以上も繰り返すものである。然るに筋の惡いものになると一聲毎の區切り判然せず、聲の終りもプッツリと切れて了ふ。

又本筋でない野鶏の馴化したものはゴッゴロ と云ふ巾の廣い余韻のある啼き方をしないで、キヤキヤッゴロ と云ふ風に狭く甲高くて余音が極めて乏しいのである。仝じゴッゴロでも甲の高いのと、低音の音との區別はあるが、それとは全く異つて居る。ともかく本筋の中で啼きの良否を論ずべきものである事丈けを知つて貰ひたい。東京では今はそんな事もないが、それでも一二年前までは專門の小鳥屋又は一角の鶏の介人が此の區別さへ知らず、滅茶々々に繁殖した爲め一層筋を亂して了つた傾きがある況して地方では今でも鶏の啼き方の良否は良く知らないものが多いのである。

而もその眞の啼鳴の優劣は分もこれを聞き分けるものが數へる程しか居ないと云事は今も記した通りである。

◆鶏の啼き方の優劣

鶏の熱心家になると朝は早くから友人間を歩き廻つては鶏の啼きに聞き入り、雛の成長したもの抔があれば早くもその成鳥後の良否を判定しやうとして大騒ぎである。

それで第一に雛の時から鑑定しやうと云ふには四十日も經てころ〳〵啼き出す時に注意して聞いてると大躰は分る。雛の啼き初めから親と仝樣の聲を出すものは九分九厘まで駄目で、鳩のやうにポー〳〵と云つた聲のものが多く良くなると云つて居る。

すつかり親になつて啼き出せば最早優劣は全く明であると云つて可い。卽ち一聲毎に判然と區切りのいゝ啼き方をし、初めは稍々低く漸次に高くなつて終りは消ゆるが如く余音を引くものであれば、共進會抔にも兎も角も出せる鶏であるとして可い。

右のやうに初め稍々低く漸く高くなり行き、やがて絶頂に達してそれから又漸次に低く消ゆて行くのが一番いゝので、最初に高く鳴き立て終りは何の餘韻もないやうなもあるし、初めグワッと立てゝ二聲目を引き込むやうなのもある、それは〳〵實に千差萬別、到底筆舌に盡し難いのは前に云ふ通りなのである。

◆良き系統のものを選ぶ事

鶏は他の鳴きを眞似しないと云はれて居る。故老でもさう云つて居る位で、余程他の鳴きの移らない性質のものと見ゆる。こゝらは鶯抔と大に異る處である。併し全然その事がないとは云はれず、矢張り幾分か鳴きの移こともあると云ふのが事實と信ずる。

良き鳴き鶏になるものは雛の時から充分その氣があつて笛を附けるとぢーッと聞き入る風があるのである。そんな風だから鳴き聲の移ると云ふ事もないではないのであらうが、併しそれは極めて僅微のものである事も確のやうである。

それで鳴き鶏を仕立てるには第一に系統を選ぶ必要がある。駄鶏の雛では決して良

いものは出ない事は保証附きであるので、銘鶏から種を引いても十羽二十羽に一羽の良鶏が出來、その良鶏と見るべきものの數十羽中に一羽の銘鶏が出來るので、高價な事も正に當然であると云はねばならぬ。

種雄のいゝのを選ぶばかりではなく、雌にも充分の注意を拂はねばならぬのはこれ又分り切つた話しで、銘鶏の種から出た雌を以て卵を採るのである。その雄をかけるにも實用鶏のやうに盛に交尾させる事は決してしない。交尾を多くさせると鳴き聲も惡くなり、切れ易くなるものである。

雌の良否は雄よりは判定に一層困難である。それは聲を立てないからであるが、中にはグー〳〵と低い地鳴きをするものもあるので、これ等は多くは良雌であると見て差し支へない。併し大低はその雌で一度引いて見て初めて良否を鑑別するのである。

雌雄の配合方法にもいろ〳〵と問題があつて只良雄良雌をかけたと云ふ丈けでは必ずしも成功するものとは斷定出來ないのである。殊に大切なのは雄と雌との間に充分の愛情があるか何うかと云ふ點である、それで掛け合はせる雌雄はよく愛の乘るやうに二羽丈け別に他の鶏の聲の聞えない場所に數日間於いてから配分するのである。或は雛の時から一緒に育てたものは何うしても愛の乘らぬ事があるのでそんな時に雌雄何れかを別の場所に移し互に忘れた時分になつて一緒にする抔の事もある。

◆啼き聲のいろ〳〵

鶏の啼くのは凡て充分強い餌、六七分位迄を與へその力で啼かすので、勿論躰力にも關係し、躰格の悪い鶏は到底滿足な音は出せないのである。そして啼くのでも立つたまま頭を上げて啼くのと、一連毎に後方に引き退り乍ら啼くのとある、何れも面白いものである。それで前に記したやうに初め稍々低く、中は高く終りは消るやうにるのが良いが、初めから終りまで仝じ調子で鳴くのもある。初め高く段々低くなるはこれは良い鶏ではないのである。

姿勢でも矢張り良い鶏は必ず先づ姿勢を正して徐ろに啼き始めるので、頸を伸し頭

を少し俯向き加減にするのが第一だと云はれて居る。頭を上の方に高く反らすやうなのは聲が續かないものである。そして甲の高いものは聲に余音が乏しく續かない事も確である。

此の低音の甲の高いと低いとは系統や鶉の個性ばかりでなく餌に依つても大に關係のあるもので、強い餌を與へると強くなり、弱い餌を與へれば低くなるものであるから、その啼き聲を聞いて餌の加減をしなくてはならない。

鶉の聲を分けて俗に玉聲、艶聲抔と云ふ。玉聲と云ふのはグワロ〳〵〳〵〳〵と玉を轉がすやうに聞ゑ、艶聲はその粒が細かくゴロ〳〵〳〵〳〵と云ふ風に聞えるものである。又玉艶聲とでも云ふべき両方を啼き込むやうな面白いものもある。總じて幾分前者が低音に聞ゑ後は高く聞えるものである。

啼き鶉の事はこの位にして筆を止める。

◉野鶉と本筋鶉の判別法

野鶉と本筋鶉との區別は啼き聲の外は一寸分り難いものだが、區別がないのではない。次に記して置く。

(一)野鶉の羽色は概して茶褐色に黒色の單純な混在であるが、本筋鶉にはその中間の色とも云ふべき茶色、褐色、黒色、灰色及びそれ等を一諸にしたやうないろ〳〵な色が間在して居る。とにかく羽色は自然の時の保護色を失ふ傾向は確かにあつて全時に非常に復雜になつて來るものである。

(二)野鶉は比較的小さく且つ引き締つて居るやうに見ゑる。併し却て形の變つたものがあつて或るものは身躰が丸く、又或るものは尾が尖つて居るのである。これに反して本筋鶉はお神酒徳利を斜にした如く、尾は下に撫でつけたやうに圓くなつて居る。

(三)雄の啼き聲は前から云ふ通りで、野鶉と本筋とでは大差があり殆ど紛らはしい處はないが、雌は余り鳴かぬから鳥渡分らぬものである。併し本筋の良鶉がグウ

〜と鳴く事があつて種引きとしては尤も可いものである事はこれも前に云つた。

處でさう云ふ啼き聲の外居常鳴いて居るのを聞き分けても本筋と野返し又は五分以下の雑血のものとは分るのである。即ち野返し、五分以下のものの聲は甲が高く強いものであるのに對して本筋及び五分ものゝ聲はヒヒと極めて輕く、何氣ない風がある。

實用鶏の優劣と選擇

◆實用鶏は本筋と野鶏の雑血

鶏と云ふ鳥は野に在る時は一年二回の繁殖をして毎回僅かに十數個宛を産卵するに過ぎぬ事は普通一般の野禽と仝じ事である。然るにこれを雛の時に捕へて馴養すればよく一年間百顆位の産卵を見るやうになる。これはその性質が人に馴れ易く、人爲の下に滿足してよく生殖繁殖するものであるからでもあるが、一面に於て元來非常な多産性を先天的に備へて居るものであると云ふの外はない。そして二代三代と經るに從つて全く蟄巣の念もなくなり、産卵數も大に増加して遂に家鶏と異ぬらものになつて了ふ。

併し野鶏をかくして家鶏並みにするのは多大の勞力と苦心とを要するもので、それよりは本筋又は本筋として認めらるゝ程の純粋種との交雑のものが家用鶏としては尤も適當して居るのである。これは恰も彼の眞鴨を捕へて馴養し、十數代を經れば鴨又は合鴨と仝樣の産卵力を得るやうにはなるが、それよりは寧ろ鴨と眞鴨の雑血なる合鴨を飼養する方が便利でもあり、初めから充分の成積が上るやうなものである。

雛つて本筋の啼き鶏は何うかと云ふに、これは數が非常に少なく高價でもあり實質上にも本筋と野鶏との雑血に及ばぬ點が多い。即ち躰質も幾分か弱く、産卵も比較

的少なく、卵も幾分小さいと云つた風である。

實用鶏としては本筋と野鶏との雑血を飼ふが可いとは今や殆ど輿論となつて居る。この雑血は無論野鶏よりも遙かに産卵も多く躰格も大きいのである。そして啼き鶏に比しては躰格は幾分小さいのが多いが躰質は遙かに強健で、卵も却て大きく、そして産卵力は驚くべきものである。

◆七分五厘雑血と五分雑血

この雑血の實用鶏には七分五厘ものと五分ものとがある。五分ものと云ふのは、野鶏と本筋ものとの半々の雑血で、以後そのまゝ繁殖を續けたものである。七分五厘ものと云ふのはこの五分ものと本筋とを再び混血したので、計算上本筋七分五厘、野鶏二分五厘の血液を有する譯である。この二種の雑血が實用鶏として推稱されて居るのである。

右の如く七分五厘、五分抔と云つても現に正確に五分、七分五厘の血液を傳へて居るものは決してないと云つていゝ位である。そんなに綿密に注意して繁殖して居ないとすれば五分ものと七分五厘ものその間にも繁殖されたであらうし、その又間のもの全すの繁殖があつて、何れが七分五厘か何れが五分か到底分つたものではないのである、別鶏の實質上から便宜的にかく呼ぶまでゞある。

然らば實用鶏の選擇は何うしたならばいいかと云つて良法とてもある譯ではない。要は種鶏飼養家の人格と、その鶏の良否の鑑定を自ら試るの外はない譯である。而もその鑑別は決して容易の業ではない。

◆實用鶏の良否鑑別法

實用鶏の良種を鑑別するのは却々困難な事業であるが、今その大躰を云つて見る事とする。

躰格は先づ大きいものを選ばねばならぬ。躰格の大きいのは發育のよかつた事を証明すると仝時に一面本筋の血の多い事を語るもので、小さいものは野鶏の血が多いと

見てもよく、又發育が惡かつた場合もあるであらう。乃至親鶏の余り若い時のもの、勢力の鈍い時のもの等、兎に角種鶏として不完全なるものである事は確である。

次に性質は充分温順なものを選ぶが可い。野鶏の血の多いものは概して性質の荒い傾向が著しいものである。野返し卽ち野生のものを馴化してその卵を野生仝時で繁殖したもの抔は往々仲間喧嘩を初めたり、互の羽毛を食ひ合つたりして始末にいけぬものである。

以上は外觀から見た點で、猶はなるべく産卵の多くそして大きいものから繁殖するやうにすれば多少野生の血が多くても漸次に良好な種類となるのもこれ亦疑ひない所と云つて宜しい。

◆七分五厘もの多産の理由

本來から云へば長い間の陶汰を經へて來た本筋の鶏が一番多産であるべき筈である。そしてその多産性は確に信じ得るものでもあるのである。然るに前に云つたが、本筋は何分躰質が弱くなつて居る。その爲めに産卵も減少し易い傾向を免れぬし、事實余り産卵を促すやうの飼養法を施すと、動々もすると病氣に罹つて倒れる事も多いのである。然るに此の本筋に野鶏の血流が入ると、その强健な躰質をよく遺傳し、發育が良く雛の養成も大に樂になり、親になつてから强い餌を充分に與へて盛んに産卵させる事も出來るやうになる。野鶏の血が入つた爲めに産卵力が減少しはせぬかとの憂ひは全く無用であつて、却て本筋鶏に於て隱れたる産卵力を野鶏の强い血が呼び起すものと考へられる。

大躰から云つて五分雜血のものはその産卵力既に本筋ものに劣らず、優良なものは一年二百五十顆位は産卵するのである。併し一層本筋の血液を多く入れる事が良好の結果である事も疑ない處で、一年三百顆以上三百二三十顆、卽ち換羽の三十數日を除く外一年産み通しと云ふやうなのは前記の七分五厘雜血でなくては到底望み得られぬものと云つて可い。

七分五厘ものゝ産卵の様子を見て居ると産卵の時には少しピー〳〵と鳴き聲を立てるかと思ふともう産卵して了つて、あとは知らぬ顔の半兵衛を極め込んで居る。その有様は産卵は只排泄物を排泄し去るが如きものとでも云ふの外はない、これが野返し抔になると産卵してから暫くはヂーッと抱卵したりして居るものなのである。

◆實用鶏の改良方針と前途

啼き鶏はその系統の雌雄を選抜して繁殖する必要がある通り、實用鶏にも系統の良いものを猶ほ一層改良しつゝ繁殖して行かねばならぬ。凡て家畜家禽は人間の意志次第で何のやうにも變化するものである。野鶏が家鶏となつて數百の産卵をするやうになつたのも既にその一例であるが、これは殆ど何等人爲的改良陶冶と云ふものは加つては居ない。單に家飼すればそして營養を充分にすれば先天的にもつた能力を發輝するまでゞある。

然るに今日現存する家畜家禽はかうして單純に家飼するに止まらず、人間の意志に適したものを選擇しては相配合繁殖して來た結果である。實用鶏の前途も自らそこに在る事を思はねばならぬ。

吾人が鶏に對して希望する處は第一にその躰格の今少しく大きくなる事である。鶏には小禽としての特長があるのであるからさのみ大きい事は望まないが、それでも今の二倍位ある事は利益である。それより大きくなると必ずや産卵も減ずるであらうし雞のチャボ抔と大差のない特性のものとなつて了ふ恐れもあるが、今の二倍位のものは望ましいと思ふ。

この大形の鶏の作り出すのは矢張り大形のものを代々選抜して繁殖して行くの外はないのである。而も一面に於てその躰質の劣弱にならぬ事、産卵力の減少せぬ事抔も重大な附帯條件として忘れる事は出來ない。

鶏は發育の極めて迅速なものであるが、肥満する力も實に強く、此の點では殆ど些の遺憾がないと云つて可い。この充分の肉と脂肪とを蓄へ得る性能が、驚くべき多產

卵の躰質となり、多産卵にも敢て躰力を損じない結果ともなり、又一面肉質を美にし卵質を良するものであらねばならぬ。かう云ふ美質は永久に維持して行きたいものである。

彼の雞の卵用種が淡白な卵を産むやうになつたのはその點では確かに改良家の失敗であつたと云ふ事が出來るのである。

雞のうちでもシャモは尤も鶏に似た躰質で、その充實した筋肉、その躰中に萬遍なく彌漫した脂肪は、体質の理想的なる事を語り、産卵力の優越を示して居るのであるが遺憾な事には鬪爭性が強いのが實用上の欠點であるのである。鶏は實に肉用卵用の相方に發達して居るが、これを以ても雞の今日の如き肉用卵用の分類は極めて不完全なものであると云ふ事が出來る。完全なる肥肉と、豐富な産卵力とは決して相反するものではなく、却て相並行せねばならぬ處のものである。

白鶏・その他變り鶏

◉白鶏が固定する見込みあり

鶏には時々羽色の全く異つたものが出る事がある。これは遇出するもので、此の變り鶏の卵から全樣のものが出る事は余りないものである。

以前は本筋の啼き鶏でもその斑の變化をいろ〳〵云つて殊に斑の判然したものが良鶏であると云ひ、又黑斑の色の淡いのを良いとしてある。

色變りの鶏のうちに比較的多く出るのは白色のものであるが、純白は何うしても少ない。白色のうちに淡黑色の斑點抔があるのが多い。普通の鶏の羽色の中へ白色の點を散らしたやうなのもある。そんなのでも變り鶏は觀賞用として珍重され、白鶏に至つては大に賞美されるのである。

今は白い鶏が割合に多い、中には白鶏のまゝで繁殖して行かうと計劃して居る人もある。それが成功すれば非常に面白いが、現在の狀態では却々覺束ない有り樣である遇出する白鶏はこの雞では再び普通の鶏に返るものが大部分で、容易の事では固定し

さうもない。併し長年月を費して撓まずやつて行けば遂に目的を達する事もあらう。既に或る人はその曙光を認めたやうに云つて居る。果して然らば鶉界の爲めに、鶉改良事業の爲めに尤も興味ある問題である。

◆鶉の變種は幾つが出る

鶉の變り種にはまだいろ〳〵のものがある。身体半分丈け白いもの、頭のみ白いもの、白色に斑紋と散らすものゝ頬や胸の柿色や栗色に變化のあるもの等である。かう云ふ變り鶉は遇出で當てにならぬものであるにせよ小鳥屋抔は割合に高價に買つて行く、將來白鶉が固定すれば普通の鶉と二種が雁行し得る可能性は充分だと思ふが、安貪として年代を經るに從つて黒色、赤色等の色彩のものは次で現はれねばならぬ、これ等は鶉の變種として比較的作り易いものであると信ぜられるからである。とにかく養鶉の余業として此の斑や色彩の變り種を作出するやうにするのも面白い事である。

(四) 種鶉の飼養法

鶉を飼養する場所

◆寒暑と日光と濕氣と風を防ぐ事

鶉を飼養する場所と云つても雞と異い小さい籠の中で飼ふのであるから、地勢や土質までをやかましく云ふ必要はないのである。それかと云つて何んな場所でもいゝかと云ふにさうは行かないので、北向きの寒い部屋や、日光の全で當らぬ場所、風の吹きつける所。温度の激變する恐ある事、濕氣の多い事も余り暖かいのも何れも多少とも害のある事は疑ふ余地はない。

それでなるべく南を愛けた部屋で障子を閉せば全く風の吹き入るを防ぐ事が出來、

暖かでよく乾燥する場所が可い。かう云ふ部屋で飼はれて居れば鶏は富に強壯であるのみでなく、よく産卵もするし啼きもするのである。時々店頭や戸外抔で飼ふ人を見るが、暖かい季節には差し支へなしとして冬抔は無論面白くない。昔から良い啼鶏になると籠の外に外箱を作つてそのうちに入れて飼養したものである。

多數の實用鶏抔を飼ふには別に鶏舎を設ける事もあるが、そんな場合にも、寒暖を調節し易くする事、温度の變化が激しく來ぬやうにする事、濕氣を防ぐ事等は先づ第一に念頭に置かねばならぬ。

◆鶏舎建築の注意と構造

鶏舎と云ふものは如上の條件を念頭に置いて建築されなくてはならぬ。即ちなるべく南面して奥行きは三尺位で可いが壁及び天井を完全にし、前面は必ず油を引いた紙障子を立てる事にする、硝子戸を入れると明くもあるし美しくもあつて甚だ適當のやうに素人は思ふ事もあらうが、その實温度の變化に感ずる事が甚しく、尤も宜しくない。

近來、鶏の飼養に凝りに凝つて温室抔で飼ふ人があるが、これなどは大變な誤解である。植物の養成には日光が必要な丈けで、温度の變化抔は動物程には弊害がないものである。そして温室は日光を得る爲めに、そして日光熱を書間は利用する爲めに作られたので、動物飼養の場合とは全く目的が異つて居る。雞の育雛抔にも天井に硝子窓を設け、前面を硝子戸にするやうへ、實驗の乏しい人のする事として笑ふのである況や鶏に於ておやと云ひたい。

それで前面の紙障子の外方には厚い布のカーテンを掛けるやうにし、比較的寒い夜の爲めに準備すればいゝ。

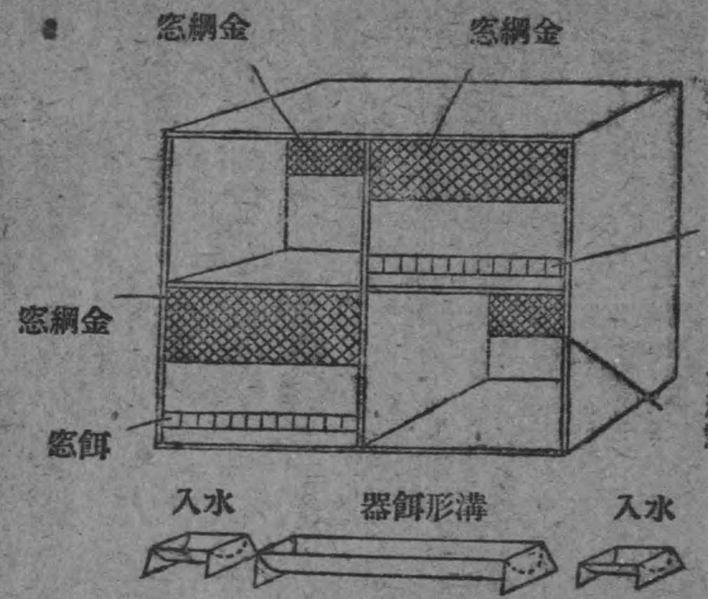
舎は奥行き三尺とし奥の壁に沿ふて何段もの棚を設け、その上に鶏籠を陳列する鶏の籠は七八寸角に過ぎぬから、棚の巾は無論狭くて充分で、管理人はその前に立ち或は通行する事が出來るのである。

育雛室も右のやうなものでもよく、或は奥行きを一間位にして作業の利便なるやうにしても宜しい。

肉用の鶏を仕立てる舎は前記の奥行き三尺の舎が恰度いゝので、只前方の軒を少し深くし、そこを通行しつゝ作業するやうにする。雪國等では冬の用意として奥行き一間にし、前方は通路とし奥の三尺を鶏の室に作る事もあらう。

この肉用鶏の飼養室の構造は、奥行き三尺左右亦三尺毎に區劃し、且つ上下二段として一室は三尺角の高さ三尺位に作れば可い。奥は壁であり、左右は板仕切りとし、前面は開閉の出來る金網戸にして、下方は上下二寸ばかり横一杯に明け、その部に餌を食ふ爲めの家を設けるのである。詳しくは圖にて知られたい。

此の肉用鶏舎の前面は障子を入れる事も、障子の外にカーテンを掛ける事も前全斷で、只管理作業は軒下にてするのである。併し寒國では奥行きを一間として奥の三尺を鶏の室とし前方を管理人の居る處にする事は前に記した。



巾一寸長さ二尺五寸
舎内肉用鶏飼養室の圖及餌器飲水器

此の三尺角の鶏室には一ヶ月位のもの六七十羽、成鶏五十羽位を飼ふ事が出來る。

鶏の飼養に必要な籠と箱

◆五種の籠と箱の用途

鶏を飼養し、雛を養成するには大躰五種の籠や箱が必要である。即ち(一)鶏籠、(二)寒瞰箱、(三)砂台箱、(四)追ひ込み箱、(五)育器である。

その外に外方へ持ち出したり、共進會へ出したりする爲め、それでなくても上流の人の間抔には飾籠が用ひられる。飾籠と云ふのは要するに普通の鶏籠を贅澤に作つたもので、今では贅澤と云つてもさまでの事もないが昔は諸大名抔は象牙の骨の籠を作るやら、金銀細工の裝飾をする抔それは〳〵贅を極めたものであつた。そして大きさは普通の鶏籠よりも幾分大きく作られたものである。併しその用途は前記の如く裝飾的である以外別に普通鶏籠と異る處はないから茲には記さぬ。

五ッの籠のうち初めの鶏籠は卽ち啼き鶏、かけ雄、産卵雌抔を入れるもので要するに親鶏籠である。寢塒箱は此の鶏籠を入れて夜間の安眠を得させる爲めで、啼き鶏には必ず用ひ、産卵鶏も少數の時は此の寢塒箱に入れて寢かせる。大多數の飼養で完全な鶏舍を設ける時は自然これは必要がないやうになる。

砂台箱は要するに書間鶏の爲めに防寒の用に供するもので、これも鶏舍が完備して居れば必要はない。育雛器は文字通り雛を育てるもので、その方式もいろ〳〵あるが鶏は雞の雛に比して極めて强健で、僅かに溫度を與へればそれで濟むのと、他に少し鶏の習性に叶ふやうにしてやればいゝので、現今あるものは何れも甚だ簡單粗雜なるもののみである。併し鶏の雛としも出來る丈け完全にして與るに越した事はないので、本書に記す方式は夏にも冬にもよく好成績を擧げる事が出來、雛も頗る發育よく今の處では尤も完全するものと信ずる。

その他鶏に必要な器具等もあるがこれは追ひ〳〵に述べるとして、次に前記の一ッ一ッに就いて說明を試みる事とする。

◆鶏籠の構造寸法

これは小鳥籠中の撒餌籠の一種で、普通の撒餌籠と異る點は天井が竹格子でなく糸網になつて居る。今小鳥籠の種類に就いて一應說明するとこの撒餌籠と樏餌籠、水籠の三種がある。撒餌籠は底が盆形になつて砂を敷き粒餌を撒いて與ふる事が出來るやうにし。樏餌籠は底の盆の上に竹格子が入つて居て、餌は樏餌を與へ盆には砂も何も

敷かない。鷽や眼白抔のがそれである。水籠は底が水盤になつて居るものである。

撒餌籠は雲雀に用ふるものと鶉のものとは天井が糸網で、他の撒餌鳥のはそう云ふ事はない。そして雲雀のには中に止まり台が附いて居るが、鶉にはそれがなく、直ちに盆の砂の上に居る。これは地禽類である鶉に必要の點で。その砂で砂浴抔を行ふのである。

鶉籠は鳥の大きい割には小さいものである。普通竹籤を六分の間隔にて植ゑ十二本が普通とするので、それに四隅の柱を入れ即ち約八寸角となり、高さは八九寸、天井の糸網の目は五分位である。これは鶉が余り自由に活動し得ぬやうにしたので、廣いと脚や翼が發達してその方に營養を取られ、啼き聲が惡くなるからで、雌にも產卵に影響するものである。

支那の鶉籠は多く圓形ですつと丈けが高く、且つ天井は糸網でなくて、周圍の竹籤を上部で曲げて中央に集め結んである。併しこの籠は日本式に劣るのである。

底の盆は取り外しの出來るやうはしてあれば掃除に便利であるが、普通は盆から直ぐに竹を植ゑてある。又盆を亞鉛板抔で作る事もあるが矢張り木の方が宜しい。

此の底には砂を敷くので、川砂の方がいゝが海邊の砂でも敢て差し支へはない。砂には木炭末及び新鮮な土壤を混入すると鶉の爲めに大變宜しい。新鮮土壤は强狀劑としての効が著しいもので且つ砂浴にもこの方が可いのであるから是非用ふるやうにしたい。從來余り注意されなかつた點であるが、私は敢てお勸めするものである。川砂のない時には新鮮土壤のみでも宜しい。少し乾燥した程度が適當なのである。

籠には餌口が二ヶ所設けられてある。これは櫂り餌を用ひ水を與ふる爲めに是非なくてはならぬ。

◆雛塒箱と砂台箱

雛が生長して假母器を離せば温度の加減に一層注意しなくてはならないやうになる。これは親鶉でも全樣に必要で殿は砂台と云ふに入れ夜は寢塒箱に寢かすので、もし完

全な鶏舎があれば此の必要はないが、廣い座敷抔で飼ふには是非準備するやうにしたい。

砂台と云ふのは下は板で上及び四方は紙又は布を張る爲に框作りとし、大さ及び高さは共に普通の鶏籠が樂に入る位の寸法である。それで普通籠及び奥の三方は紙を張り、前は十文字の桟を入れ戸にして嵌め外しの出來るやうにし、紗の布を張るのである。

これは主として啼き鶏に用ふるもので、鶏は他に鶏の姿が見えないやうにして置く必要があるから温暖と共にこの目的にするのである。産卵鶏ならば幾つも一所に入れる事項の寢塒箱のやうにして宜しい。

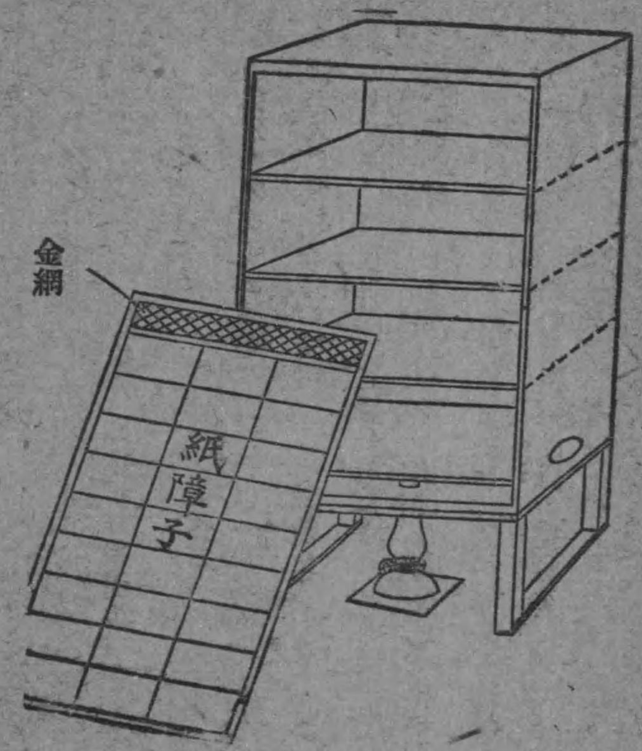
寢塒箱は上下及び側面奥の三方を板とし、前面は紙障子の戸にするのであるが、夏は金網戸にしたり、冬でも紙の代りに妙を用ひて空氣の流通をよくする事もある。

この寢塒箱には大小いろ〳〵あるが、自分の用ひたものは多數の實用鶏を飼ふには便利であるから次に記す事とする。

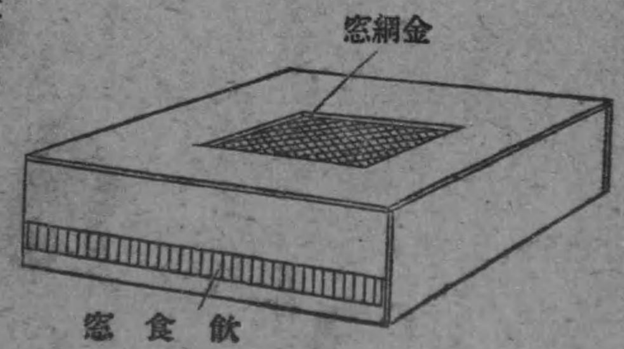
◆杉浦式の保温箱

自分の方式は産卵用の鶏に用ひ、晝間も砂台箱を廢してこれを用ふるので、即ち晝夜兼用のものである、啼き鶏には晝間は矢張り普通の砂台箱を用ひねばならぬが、夜間はこれで宜しい。

扨て自分の方式と云ふのは、奥行き一尺、高さ四尺六寸、巾二尺八寸で、中央に四段の棚を入れ、一段毎に四個づゝの鶏籠を入れ合計十二個を入れるのである。各段の間は九寸五分、棚板の厚さ正味五分ばかり、棚の奥は六七分、前は一寸ばかり、奥の羽目板、前の障子との間に間隙が出來て居る。最下段の棚の下には亞鉛板のパイプがあつて、それにランプの火焔が通じ、この箱の中を金躰いゝ工合に温めるのである。即ち温熱は下方から起つて棚の前後の室隙を通過して上方に昇り、箱内は萬遍なく暖められる事になる。



保温箱の圖



餌器飲水器は肉用鶉室に用ふるものと等し

箱の前面には障子を嵌めるやうにする。此の障子の上部は巾一寸五分ばかり横に一杯紙を張り殘すやうに作り、そこから空氣が流通する。

この箱は冬は晝夜ともに用ひ、寒い日にはランプを點じて、管内に火氣を通ずると自由に温度を昇す事が出來る。夏は前面の障子の紙を紗に張り換へ、多くは夜間のみ使用するのである。

◆追ひ込み箱

これは前に述べた肉用鶉の養成に鶉舍を準備せぬ場合、箱式に作つて座敷、納屋又は不完全な舍内等に用ふるものである。

大きさは隨意であるが深さ（奥行き）は余り深くなく、精々二尺五寸位までが可い深いと掃除に不便であるからである。高さは一尺以内とし、上下及び側面奥の五方は板にて作り、但し天井は取り外しの出來る蓋にして置く方が便利である。

前面も板にして中央部丈け巾三寸横は箱一杯に窓形に開け、約八分目位に格子を植

ねてその外に餌器及び水入れをかけ、飲食及び通氣窓、兼明り取り窓とするのである

この箱は便利であるから、前章の鶏舎に二段位の棚を設け、最下段とも三段とし、この追ひ込み箱を入れて肉用鶏を養成しても可い。さすれば掃除の時はこれを抜き出してする事が出來るので、舎を汚す恐れがない。

肉用鶏は三十日も經過するとこの箱に取り多數を群飼するので、箱内は多少幽暗であるから鶏は靜かに發育して惡僻等のつく恐れも少ないのである。併し產卵用の鶏はかく粗畧に飼養しないで、一羽毎に別々に養成する事親鶏と仝樣にするに越した事はない。

◉鶏の育雛器

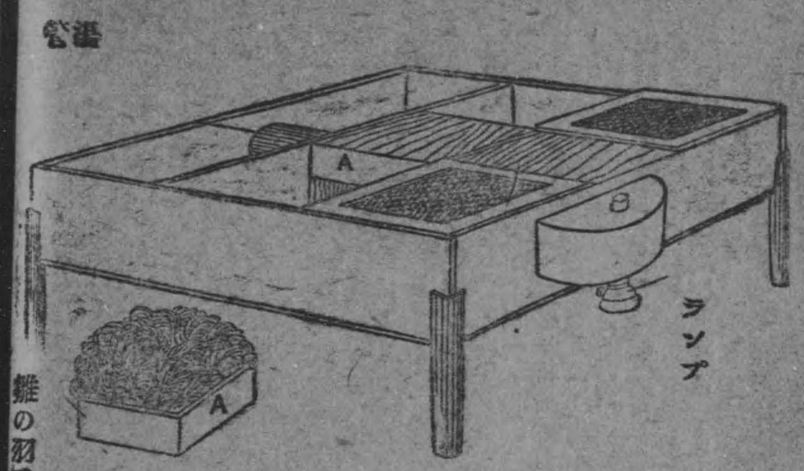
實用の鶏も啼き鶏も孵卵は母雞でするとして育雛は人工でせねばならぬ。仲には母雞に附けて育てる人もないではないが、これは甚だ危險である。鶏の雛は極めて强健なるものであるから、母雞等を附けて飼ふ必要は少しもない。人工法にて容易に發育せしめる事が出來るのである。

現在の鶏の育雛器は概ね炭團假母器の一種で、箱を二段に重ね、下方の分に炭團を入れ上に雛を入れるのである、雛に給温するのに下方からするのは元來甚だ不合理であるが、敷物を厚くして下方の熱の直接に雛に當らぬやうにし、且つ上に厚い被ひ物殊に羽根蒲團のやうなものを用ひて温暖の籠るやうにすると、强ちに下方から温暖を與へたやうではなく、上方から與へるに等しい感覺があるのである。

併しかうして無理に上方からの如き感じを與へやうとしても實は下方からであるのだから、殊に冬抔は面白くない結果を來すを免れない。

圖に示す方式は温度はじめ上方から與へられる事になり、天然の場合と少しも異らぬ狀態を換してある、敷物はヅック(外國の米の袋)か、土壤を乾燥したもので宜しい温室内には軟かい切り藁か、ヅックを敷くのである。

圖の如く器内は運動箱を温室の二區に分たれ、運動箱には金網又は紗い障子蓋を施



完全鶏用の育雛器の圖　　A内部は綿

し、温室内には羽毛を垂れるか兎の皮を張るのである。自分の使用するものは大さ三尺角にて先づ三區に分ち、その三區の中央を横に湯管が貫通して都合六區に分たれる。一區毎に十五羽乃至二十羽を入れて宜しい。

深さは六寸、運動場は各一尺角、温室は五寸の一尺となり、その奥に湯管が通つて居るのである。湯管と底との間は一寸程間隔があり、そこは板に塞かれて居る。温室内の敷物は奥の方を厚くして初め四五分の厚さとし、雛は湯管に身躰を沿ゐて温暖を取るので、同時に温室内も相當に暖かく、極めて天然に近い狀態となる。湯管内の湯の温度は大躰母雛に摸して百七八度とし、湯管下はヅックを一枚巻いて置く。

この育雛器は鶏用として尤も完全であるばかりでなく、雛用に用ひても可いので、多少大形に作るまでゞある。

育雛器に就いては育雛の項に述ぶべきであつたが、便宜上一緒に記す事としたのである。

鶏の餌のいろ〳〵

◉餌の加減一ツで自由自在

鶏の産卵を多く獲やうとするには第一に系統で、五分雛血乃至七分五厘雛血されば實によく産むのであるが、野鶏の系統のまゝでは今の處何うしても産卵が少ない。野

返し鶏の五分雑血以上に多産するやうになるにはまだ數十代を經ねば駄目であらう。

多産の系統のものを得たならば次は平素の管理である。如何に良鶏を如何に良餌を以て飼つても管理が當を得なければ到底多産は愚か、健康をさへ保つ事が難いであらう。

併し一面鶏位飼料に依つて産卵を左右し得るものはない。否産卵のみでなく、啼きを出すにも亦飼料の加減一ッなのである。鶏は雞と近屬で、その飼養は雞の飼養の標本のやうなものであるが、飼料に依つて自由自在に或は産卵を増減し、或は脂肪を加減するの可能と興味とは到底雞の比ではないのである。換羽の如きも雞では餌の加減で緩急自在であるとしてもそれが判然とするまでには長い時日を要し而も未だ實際家と學者とを問はず一般には知られて居らぬやうでもあり、實行もされて居ないのである、恐らく私しの唱導したのが一番早い位のものであらう。

然るに鶏には此の換羽の如きも飼料の加減一ッで緩急共に自由に行はれるゝ、羽毛の脱落を促したり、發生を充分にしたりする事は實に容易に行はれるのである。

とにかく鶏の飼料の問題は興味あるものであり、又實益の如何のかゝる點でもあるのである。

◆鶏の餌には何を用ふるか

先づ鶏の餌の材料となるものから述べねばならぬ。鶏の餌位と人は云ふかも知れぬが、初心の人は全く知らぬもあらうし、知つても實利的に研究してない向きも少なくあるまい、鶏とても實利、目的で飼養する以上は効果と經濟の如何を考へねばならぬ尤も啼き鶏には餌代の高くつく事抔は眼中に置かれないであらう。

鶏の餌には撒き餌即ち粒餌と糎餌の二種がある。撒き餌は雌鶏の産卵を望まない時肉用鶏の養成に少し位時日を長く要しても安價で上げたい時、又は販賣の好機を狙つて追ひ込み等で捨て飼ひにしてある時に用ふるもので、啼き鶏や、産卵を希望する時等は勿論糎の餌でなくてはならないのである。

撒き餌は普通黍、粟、稗で、脂肪を與へる必要のある時には荏胡麻を用ふる。これは主に冬季に必要である。そして青菜は成るべく毎日別に與る。この粒餌でも產卵の出來ぬ事はないが擂餌のやうな譯には到底行かない。又鶏に精力を持たせる必要のある場合は生の雞卵を混入するので、大抵粒餌一升に雞卵三個位の割である。

擂り餌は穀物の粉末と、魚と青菜とを擂り合はしたもので、穀粉は普通米糠に玄米粉を混ぜたものであるが、必ずしもこれに限つた事はなく、蕎麥粉、大豆粉、玉蜀黍の粉等純粹の穀粉であれば何でも可い。寧ろ成るべく多種類を混ずる方が弊害がなくて可いのである。

魚は鯉を第一とし、鮒、鯊等も用ふる。何れも燒いて乾燥して置くのである。鰻の頭は脂肪が多過ぎるが昔はこれを多く用ひたものである。

魚のうち鮒、アナゴ抔は腹の處に苦い部分がある。これは用ひてはならぬと云ふものもあるが、決してそんな事はない。尤もこの苦い部分を除いて與へる併を附けるとそれが習慣になつて了ふのである。實用鶏にはそんな贅澤をさしては耐らぬ。

以上の川魚類は何れも隨分高價で、東京の如きは時として價格に係らず手廻り兼ね大に困難する事がないでない。海魚等で品物も濶濕に、脂肪も少なく、味も惡くないものがあると誠に都合が可いが、今はまだそう云ふ研究も積まれて居ないのは殘念である。只鰛の子の干したものは用ひて居る。

右の魚と穀粉等との調合法、作り方は次の項に述べる事とする。

青菜は何を用ひても差し支へないが、菠薐草は下痢を起す恐れのある事を知つて置かねばならぬ。その他のものなら何でも可く、摘み菜（間引き菜）、大根葉、凡ての菜類、草では藜、地膚等の若葉はこべも可い、芹、みつばは一種の香氣を持つて居るが用ひて差し支へない事は古書にも載つて居る。

右の通り青菜、青草何でも可いが、余り性質の分らぬもの、毒草と知れて居るもの等は勿論使用しない事にする方が安全である。

◆その他の補食物は何うか

右の三種の餌は鶏の主なる餌であるが、その他に鶏の餌料として飲くべからざるものがある。第一には俗に活き餌と稱する各種の昆虫類で、蝗虫、バッタ類、地蜘蛛類抔である、これ等はその多くを得る事も困難な場合があり、平素連續して與へる事は出來ないが、鶏の元氣を失つた時、少し病氣の時抔にはこれを與へると大に元氣を增し健康に益あるものである。蝗虫抔は土地に依つて多量に得られるものであるから、その時季に採取貯藏し、魚類の代用にしても宜しい。とにかく稻子の採取貯藏は怠るべからざるものである。

水は人間の使用するものなら何でも宜しい。一番安全なのは水道の水であらうが、井水、流水何れでも可い。勿論礦毒の水抔は論外で、深山の硬度高き谷川の水も可いとは云はれない。併しとにかく人間の使用するものなればそれで可いとせねばならぬ。

水は糯餌に用ふる外、飲水として與へるもので、成るべく新鮮なるものを用ひ、硬度の高いものは一旦煮沸して冷却して用ふれば合有する礦物質を除く事が出來る。併し煮た水は味に於て清水に劣るのは已むを得ぬ處で、これは主として酸素の欠乏からである。

その他補食物とし一礦物質飼料がある。その第一は新鮮土壌で、この新鮮土壌中には鐵分を含みその他鶏の強壯劑となる處の種々の物質を含有して居るものと考へられる。

石灰質物としての介殼粉は亦飲くべからざるものである。產卵中の鶏の卵殼を成生する用としては勿論、啼き鶏にも必要であり、雛には殊にその骨格の成生に無くてならぬものである。

介殼粉は雛と仝樣矢張壯勵末が一番可い。一種の快味を有し、消化も容易なるものである。

鶏の餌の作り方と與へ方

◆啼きも産卵も餌次第

鶏の産卵するその原動力は皆その飼料から供給されるものであるは云ふまでもないことである。その卵は何から出來て居るかと云ふに、卵殻は主として炭酸石灰から成り立つて居つて、鶏の卵子が卵巣に於て充分成熟し、やがて卵巣を離れて子宮に入り、そこにて雄の精を受け、或は精を受ける事なく一定の時間を經て輸卵管に入り、漸次卵事の周圍に卵白が集積しつゝ進行し、やかてその周圍に薄膜を被り石灰の殻を被るものである。この卵巣から出る卵子と、輸卵管にて集積される卵白とは何れも主として蛋白質から成り立つて居る。卵黄には少許の脂肪・鐵分、硫黄、燐酸抔を含んで居るが、主として蛋白質を以て成つて居るのである。

鶏の卵のこの多量の蛋白質は何處から供給されるかと云へば勿論飼料からであるのは説明までもない事である。産卵鶏を飼ふに當つてその飼料の調製には自ら決定されてるものゝあるのを讀者は直ちに解し得るであらう。

鶏の飼料として與へらるゝ殻粉、魚類、青菜抔は一躰何等の成分から成り立つて居るかと云ふ事を知るのは鶏の飼料の調製上尤も必要な點である。以下それに就いて少しく述べる處あるであらう。

◆動物質の多給が肝要

鶏には限らないが雞、水禽、豚等の雑食の家禽畜に就いてその飼料を論ずる場合、第一に知らなくてはならぬのは、凡ての植物質の飼料が炭水化物たる澱粉に富み、蛋白を缺如する事甚しい事である。仝時に魚類、澱粉等の炭水化物の零なる代りに大部分は蛋白質から成つて居る。その他双方只多少の脂肪分を含んで居るが、植物質の脂肪は効果も乏しく、分子が粗大で消化に困難なるものである。これに反して動物質

の脂肪は消化よく鶏にあつては、屢その甚しい蓄積を見頗る困却するものである。とにかく動物質は多量の蛋白と共に、比較的有効な脂肪を含んで居ると云ふ事を記憶すれば宜しい、

かく魚類に多量の蛋白を含む事は望ましい事であるが、仝時に脂肪の多いと云ふ事は不便を感ずるを禁じない、何となれば脂肪のうちでも動物性のものは消化が良く、仝時に鶏の躰内に蓄積され易いもので、もし脂肪が汀ればその多産は決して望み得られぬばかりでなく時としては永久に廃鶏として産卵の望まれぬやうになる事もあるのである、魚類は必ず脂肪の少ないものを選ばねはならぬ。

鶏の産卵には、その卵のうちに含有する蛋白の量から推しても飼料には多量の蛋白質を供給せねばならない、事實に於ても蛋白供給飼料たる處の魚類の多給を要する事が一般に承認されて居る、即ち鶏の産卵用の飼料としては魚類を充分に與へる事が肝要である。

この魚類は前にも云ふ通り鰮を第一とするので、これは主として嗜好上から來て居る。脂肪の少ない點では鮒、鯊、タナゴ抔の方が却て可い。

何れにしても炭水化物と窒素物、即ち澱粉類と蛋白質との供給は、穀粉と魚類との配合に依りて定められる事は甚だ便利なる事である。今も云ふ通り、この植物飼料の澱粉のみから成ると云つて可い事（繊維等を含むも炭水化物なる點に於て仝じく、只澱粉よりは効力が乏しい丈けの差違である）と、魚類が多少の脂肪を有する外蛋白質から成り立つ事とは、餌の調合をして、單純に此の二種を適度に配合する丈けにて俗に強い餌、弱い餌の何れとも自由になし得るのは甚だ好都合の點であると云つてよい

それで産卵鶏には何の位の程度の餌が必要かと云ふに、大躰を平均して動物質六、植物質一。の割合が適度だと云ふ事になつて居る。即ち穀粉類百匁に對し、魚類六十匁の割である。これは産卵用の鶏の飼料として適度のものとして一般に認められて居る。

◆鶏の樣子を見て加減する

鶏の躰量は約三十匁である。そして卵一顆の重量は三匁である。卽ち躰量の十分一の産卵を而も毎日すると云ふ事は實に驚くべき事と云はねばならぬ。そしてその卵の成分なるものは大部分が蛋白質であるとして見れば飼料に蛋白の多給は無論必要の事で、その爲めに魚類を多給するのであるが、その學理的に研究された分量と云ふものは今の處余り判然とはして居ない。處が鶏は前に述べた通り、飼料の加減に依つて産卵の工合を實によく見る事が出來る。飼料の影響の現はれる事が實に著しい。

右の次第で今日迄で多くの實驗家が、産卵に必要なと云ふ飼料の調合を學理的にではないが、事實の上に寧ろ甚だ明確に實驗を重ねて來て居る。そしてその結果は六分餌を以て産卵には尤も適當して居ると云ふ事が明かになつたのである。中には五分餌を可しとするものもないではないが、それは啼き鶏杯であつて、産卵用の鶏に、その産卵能力の全部を發揮せしめやうと云ふには六分餌が恰度いゝやうである。

併し生物の事はかく千編一律的に云ふ事は出來ない。六分餌に限ると云つて居てもそれでは強よぎる事もないではない、又時に弱すぎる恐れの全くないとは云はれないその加減は凡て鶏の狀態を見てすべきものであつて決して一概に云ふ事は出來ないのである。

鶏の産卵の工合を見て、若しその産卵の時刻が毎日少しづゝ早くなるやうであればこれは餌が強すぎるものと見て宜しい。又少しづゝ遲れ又は休産する日が多いやうであればこれは餌が弱いのであると見て宜しい。鶏の系統にも依るものゝ、七分五厘ものである以上、餌の強さが適度であれば必ず毎日産卵して換羽の數十日の外は休産するやうな事はないものなのである。右の加減をよく呑み込んで餌の強弱を上下するが宜しい、それでも一年二百五十顆位以上を産み得ぬ五分位のものは、如何に餌を強くしたとて無駄な話しで、これ等には寧ろ五分餌位にして置く方がいゝのである。

以上産卵鶏の餌の加減は實地に臨んで變に應じた處置を爲すべく、到底簡單には云

ひ靈されぬ處のものである。

◆産卵鶏には六分餌が適當

産卵鶏の飼料は六分を主眼とし、五分を五分雑血のものに與へると云ふ標準を定め次ぎに啼き鶏及びかけ雄の飼料は何れ位かと云ふに、これは寧ろ五分餌を主眼とするが宜しい。そして場合次第で六分餌を與へる事もあるのである。

前にも云つたが、啼き鶏の鳴聲も飼料の加減次第で可成りの程度に調子を整へる事の出來るものである。即ち甲の高きに過ぐるものには弱い餌を與へ、低音のものには強い餌を與へると云つた風で、これも鶏の鳴き聲をよく〳〵聞いてするのであるから決して容易い事ではない。併し慣るればそれも容易に出來るのである。

強い餌と弱い餌との鶏に與へる影響は却々面白いもので、前記の如く單に産卵の多少啼きの強弱のみではない今強きにすぎた餌、即ち魚の勝ちすぎた餌を與へ續けると産卵中の鶏は時に身躰に違和を生じて産卵を休止し、時には大に健康を害する事もないでない、これは主として蛋白の過剰な爲めであるが、又一面脂肪過多症に陥る事が少なくない。魚には多量の蛋白の外脂肪を合有して居るが、この動物性の脂肪は消化吸收される事が多く、その脂肪は運動の少ない飼養法を施されて居る鶏にあつては直ちに躰中に蓄積して了ふのである。これが即ち鶏の産卵を害する主因となるのである

この産卵を害する脂肪蓄積の療法は後に述べるとして、ともかくも産卵鶏には六分餌を標準として時に七分餌を與へ、時には今少し弱くする事もあると思へば可い。又啼き鶏には五分餌を基本として、大に鳴かせやうと思ふ時には六分餌位にする事もあるのである。

◆餌を常に變化させぬ事

鶏には常に餌の性質を一定して余り變化の起らぬやうにせねばならぬ。例へば今迄米糠七分、玄米二分、大豆粉一の餌を與へて居たものを、急に米糠を五分にして他のものを増す事抔は絶對に宜しくない。かう云ふ變動を余義なくする場合には十五日位

もかゝつて漸を追ふてしなくてはならないのである。青菜青草の變化は余り差し支へもないが、それでもなるべくは今日大根をやり、明日は草を與へると云ふやうな事のないやうにしなくてはならない。

又仝じ米糠・大豆粉抔でも今迄用ひて居たものと全く異つた品質のものを與へねばならぬ時には前の分の無くならぬうちに注意して少しづゝ變化さして行くと云ふやうな事も忘れてならぬ一ッである。これと仝樣魚を變へる場合卽ち鰯から鮒に移り、鮒から鯊にする場合もあらうが、これ又漸變と云ふ事を念頭に置く必要があるのである

餌の品質を畧に一定して行く事を忘れぬ一方、穀粉　魚との割合も濫りに變化してはならない。六分餌で產卵して居れば、その餌が強いか弱いか明確に分るまでは一定して行くので、從つて餌の重量、分量は眼分量で可い加減な事をせず、必ず秤を用ひする事とする。それでないと日々の餌の分量を正確に定めると云ふ譯に行かぬものである。六分餌のつもりで居ても或は五分五厘位よりなかつたり、六分五厘にも七分にもなつたりする恐れがある。

◉糠粉の調合の割り合

糠粉の調合の割り合は人に依つて相違があつて、何れが良しと定める事は鳥渡出來にくい。又穀粉の種類も米糠と玄米粉のみを用ふる人もあり、その他蕎麥・小麥粉抔を混合する人もある。舊時は主に米糠・玄米粉を用ひたもので、その割合は米糠一升に玄米粉三合の人もあり、米糠一升、玄米一合と云ふ人もある。さうかと思ふと玄米一升と大豆粉二と混じ、米糠に加へよと云ふ人もある。

大豆粉は絕對によくないと云ふ人もある一方には一割乃至二割位を混ずるが可いと云ふ說もあつてこれ又一定した處がない。併し大豆のよくないと云ふのは脂肪が非常に多いからであるから脂肪を拔いた大豆〆粕を用ふる事にすれば多量の蛋白を安價に與へる事になるので大變可いのである。但し〆粕は塊りになつて居るものよりも近來米飯に混合して用ひよ抔と云つて居る粒のまゝにて潰されてあるものゝ方が宜しい。

併し鶉と云ふ雑食動物の本來の性質から云つて、成るべく多くの種類のものを混入する方が適當して居る事は疑ひない事實である。先づ米糠を五分と定め、蕎麥・大豆・粕粉・麩、玄米粉を各等分に混じたものとすれば一番理想的であると云ふ事が出來る、併し余り種々の種類のものが手廻り兼ねる場合には必ずしもこれに限ると云ふのでないから一二種を減じてもいゝ。要は米糠と玄米粉は必ず用ふるものとし。玄米粉は全躰の三割以上には昇らぬ事を標準とすれば余り間違ひはないのである。

◆粉の作り方、餌の擂り合せ方

鶉の餌は擂り飼とする前に煎つて粉にするのが普通である。米糠は無論粉にする迄もないが矢張り蒸らねばならぬ。その蒸り加減は余り強くない火で糠がサラ〳〵と濕氣が無くなり、少し黄色を呈する程度が宜しい。焦げて赤くなつてはいけない。赤くなつたのは炭化したのであるから消化不能となるからである。それには炮烙に糠を入れたならば傍に附いて居て絶えず攪拌しないと駄目である。

玄米や大豆は蒸つてから粉にするのであるから、これは少し赤く色が附く程にせぬと眞までは蒸れないものである。

麩や蕎麥粉抔も一應濕氣が充分に無くなる程度まで蒸つて用ひる事とする。

茲に注意せねばならぬ事は玄米は必ず餅米を用ふるやうな事があつてはならない、玄米粉を自ら作らず鳥屋抔から買ふと折々餅米を用ひたのがある。餅米は稻りも強くて鶉は食ひ惡いから嫌ふばかりでなく、消化も惡く脚氣に類した病氣に罹り易いのである、凡て鶉の飼養中脚の病む傾向のある時には玄米粉を減ずる必要があるもので、餅米の如きは初めから用ひてはならない譯である。

魚は夏は三四日分、冬は十日分位づゝ豫め一度に粉にして置いても可い。

いろ〳〵餌を擂り合はせるには擂り鉢で先づ青味をよく擂り潰し、次に魚粉を入れて充分に擂つて水を加へ掻き廻した上に糠類を入れ今度は篦の如きものでよく〳〵攪拌して出來上るので、粉を入れてからは擂つては宜しくない。擂ると粘りが出て鶉は

頸を振つて食量が減ずるものである。

餌の軟かさ加減、即ち水を入れる分量もこれ又注意を要する點である。大豚糠味噌の軟かさと思つて可いが、何れかと云へば軟かきに失するよりも硬い目に作り、水分の不足は別に水を與へて置いて鶏自身に加減せしめるやうにするのが確である。凡て動物の飲水量、水を要する程度は各個に差異があるのであるし、日に依つても相違があるのだから人間の考で定める事は困難である、是非水は別に與へなくてはならない。

◆餌の與へ方と夜飼ひ

鶏の餌は三度宛與へればそれで宜しい。余り一時に多量を與へ、餌壺に古い餌が殘つて居ると鶏は餌飽きをして食ひが悪くなるものであるが、仝時に餌壺に餌が全く絶えて了ふやうでもよくない。

晝の餌、夕の餌は前の分が少しく殘つて居る位にしてその上に與へる事にする。餌が絶えるのは可くないと云ふ事を念頭に置かねばならない。そして一日三度新鮮な者を與へれば鶏の食欲を促す上に大効があるのである。雞のやうに一二時間も斷食させて食欲を増進させる抔は鶏には應用する譯に行かぬ。

產卵用の鶏、啼き鶏には夜飼ひを是非行ふ必要がある。鶏は強健で消化力も却々強いから日中丈の取食では長い夜を過す事は出來ないし、出來ても產卵も少なく、啼きも充分には行かないのである。

鶏の夜飼ひ法には十時か十一時までゞ、終るのと徹夜に亙つてするのとあるが、徹夜飼ひは却々宜しくない。假令徹夜飼を與へ明りを燈して置いても鶏は夜は勝手に眠るし、餌とても食ひたい丈けより食はぬものであるが、併し實際上徹夜して餌を與へて置く必要もなければ、徹夜餌を食ふと云ふ事が鶏の消化機に良い結果を來さないのである。

夜飼ひは十時か、冬は十一時までとする方が宜しい。そして夜中幾時間か消化機に

餌養を與へる方が可い、その代り朝は出來る丈け早く餌を與へる事とするので、早起きの鶉には朝は早い程可いのである。

右の如き方法で飼養すれば七分五厘の血液を有する鶉なれば一年三百個以上の產卵を見る事實に易々たるもの、徹夜飼ひの必要もなく、濫りに强い餌を與ふ事も要らないのである。

猶ほ序に云つて置くが夜飼ひと云ふのは夜間餌を與へるものだと云つて眞暗では鶉は餌を食ふ事は出來ぬ。卽ち定刻迄は寢塒箱の外にランプ、電燈を燈して置くのである。

ランプを消す時には餌壺を外して、翌朝鶉が古い餌を食ふ事のないやうにせねばならぬ。そして壺は清潔に洗つた上で翌日の使用に供する。

◆鶉の食ふ活き飼とその効

鶉の飼養は隨分反自然的である。その野にある時は自由の天地に馳け廻り、好むがまゝの餌を食つて居た。それが籠飼ひにされ、一定の餌料を與へられるので、鶉の病氣になる原因理由は何時もこゝに存在するのである。此の反自然の狀態を少しでも改善し、鶉を强健に生存せしめる爲めにはそれ〴〵の管理法がある。それは後に述べるが、餌の上にもこの注意が必要なのである。

鶉には昔から活き餌と云つて蟲類抔を與へる事になつて居る。これが卽ち鶉の生活の反自然を緩和しやうとする手段の一ッである。この鶉に與へる虫類は種々あつて、蜘蛛類は尤も好む處であり、地蜘蛛、袋蜘蛛抔は出來る丈け與へるが可い。簑虫、葡萄虫　地虫、蜂の子抔も好いのである。蝗虫、バッタ類を粗と茹でゝ乾燥して置いたものも可い。

以上は凡て播り餌に魚の如く播り込む事をせず、別に一日二三匹と定めて投入してやるのである。蝗虫抔は大きいから三ッ四ッに切つて與へる。蝗虫で二匹位まで與へても宜しい、これは播り餌に五分六分の魚を用ひて居る時の話で、もし播り餌に魚を入れ

ないなら、蝗虫で一日十匹位まで與つて差し支へないのである。

餌を食はぬ時には黒蚯引（赤蚯引ではいけぬ）の腹中のものを絞り出し、水で洗つて二三分に切り擂り餌に混入すると食ふやうになる。

卵も動物質餌料として適當なるものであるが、これは擂り餌に混ずるよりも活き餌の一種として使用する事にする方が可い。その使用法は茹でゝ殻ぐるみ突き潰すのである。又粒餌には生のまゝ一升に三個位の割で混合しそのまゝ或は乾燥せしめて用ふる事もある。

凡て活き餌は鶏の元氣を強くし、健康を増進する効の著しいものであるから怠らずこれを供給するやうにせねばならぬ。産卵の乏しい時抔でも活き餌を與へるとずん〳〵多産して來る事が多いもので、そんな時には擂り餌の魚が少ないのだと云ふ事を知る譯でこれを増加する事にしても可し、活き餌が濁澤にあれば、寧ろ活き餌を以て補足する方が結果の好いものである。

鶏が病氣になつた時の如き、活き餌を與へた丈けで難なく回復して了ふ事もある。

とにかく活き餌の効力は大きいものである。

管理飼養のいろ〳〵

◆再び給餌と夜飼ひに就いて

これは既に詳しく云つたのであるから再説の必要はないが、鶏を飼養して成功と失敗との岐る處であり、且つ飼養管理法の説明の順序として簡單に要領を摘出する事とした。

要するに餌は一日三回與へる事とし、毎回鉢の底がまた濡れて居る位のうちに次を與へる丈けの注意を取り、夜は十時か遅くも十一時までゞ夜飼ひを止め、あとは暗くして鶏に充分の安眠を與へる事とする。

餌が不足すれば產卵の減少するのは云ふまでもない事で、夜飼ひも全く行はないと云ふのは宜しくない。さりとて徹夜飼ひは鶏を疲らし、二日三卵の如き多產を得る事はあつても結局その壽命を短かくするやうな事になり易い。そればかりでなく不意に病氣になつて斃れたりする例も多いのである。

尤も飼料を安價な粗劣なものを與へる習慣の人もあつて、かう云ふ人では徹夜飼ひをせぬと多產も望まれないし。又徹夜飼ひを行つても普通の良餌を與ふるものゝやうに危險は少ないのである。

補食物としての介殼、新鮮土壤、木炭杯は絶えず與へて置くが宜しい。水も毎日やらなくてもいゝと云ふ說もあるが、前章に述べた理由があるから矢張り絶へず與る方が眞個である。

活き餌は健康にも、元氣を增す上にも、擂り餌中の魚の不足を補ひ、又產卵の減少が魚の不足に依るか何うかを鑑定する上にも、猶ほ又食欲不振や餌附きの惡いのを治す等にも皆これ〳〵に効があるので、經濟上から視ても是非これを用ふるやうにしたい。その詳しい事は既に云つたから茲には省く事とする。

◆清潔法の勵行と籠

鶏には害虫が非常に發生し易い。糞から出來る糞虫（ふんむしとも云ひ、はひしとも云ふ）及び羽毛に附着して居る羽虱抔、その種類は殆ど雜と全樣に却て多いのである。

これ等の害虫は何れも不潔から生ずるもので、その豫防驅除法としては砂浴、沐浴があるが、籠の清潔と云ふ事は第一に行はれねばならぬ。砂浴、沐浴ばかり實行しても籠の中が不潔では何にもならないのは云ふまでもあるまい。

籠は一羽毎に二個づゝ準備するには及ばない、併し鶏の數に應じて幾個か余分に準備し、時に、或は多數の鶏を飼ふ場合には毎日幾個づゝかを清水でよく洗ひ潔め乾燥して再度の使用に供する事とする。

籠の中に敷く砂は毎日交換して與へればそれに越した事はないが、二日目乃至三日目には是非交換するのである。そして砂の中には木炭末、新鮮土壌を混じて置く事は前に云つた通りである。

◆砂浴と沐浴を行ふ事

砂浴は地禽類の凡てが行ふもので、これに依つて羽毛の汚穢を去り、羽虫や羽虱を驅除するのである。併しこれは籠に入れてある砂で鶏自身に勝手に行ふものであるから、只砂を常に清潔に、交換を厲行すればそれで可いのである。

沐浴の方法に二ッある。一ッは細目の如露を用ひて籠の上から注ぎかける方法で、温ま湯を使用するのである。昔からこれは行はれて來て、夏抔は小雨の降る處へ短時間の間出して置いたものである。

今一ッは温湯中に入浴せしめる方法で、温ま湯の中に鶏の頭丈け出して入れ、靜かに手で洗つて與るのであるが、その際羽毛を上下に揉むと抜けを恐れがあるから、靜かに横にサワ〳〵と湯の中で羽毛を搖るやうにする方が可い。

よく洗ひ終つたならば乾いたタオルで充分に水を吸ひ取らせ拭ひ取つて了ふ。そして必ず日蔭げの處に置いて、日光に當てゝはならぬものと知つて置く。

沐浴は凡て一ヶ月に一回行へば宜しい、前者の方或では鶏を濡れたまゝにして置くから處〻行つては却て害のあるものである。後者ならば幾度となく行つても悪くはない、脂肪の多くなつた鶏の脂肪を抜くのには此の沐浴が一番可い、そして方法さへ妥當なれば鶏は非常に喜ぶものである。毎日行つても決して害はない位であるが、併しそんな必要は絶對にない。普通の肥滿さの鶏なら一ヶ月一回で澤山である。

沐浴を行はせるのは必ず晴天の日を選んで日中十時から二時頃迄の間にするのである、曇つた日や寒い日抔には必ず見合はす方が可い。それでないと鶏に風を引かして了ふ恐れがある。

◆鶏の換羽と産卵に對する効

鶉も鳥類であるから換羽をする。處が野鶉と家鶉では此の換羽の狀態に少しく變化が見られるのである、卽ち野鶉は一年一回秋に換羽する事他の鳥類と仝樣であるが、家鶉は普通二回位は換羽するものである。尤も一回丈けにして置かうと思へば出來ぬ事もないが、それは却て鶉の健康に可くないので、矢張二回させる方が宜しい。

家禽となると雞でも鷺、鴛の如き水禽でも此の換羽は一年一回とは限らない。普通の飼養法では一回であるが、鷺の如きは多產せしむれば秋でもない時分に換羽するのが却て普通になつて居る、雞でも多產すればまだ秋にならぬ八月頃に換羽して了ふものである。

鶉のこの換羽も矢張り多產の結果から來るので、時季は秋と限らず、又餌の加減次第で何時でも換羽を行はせる事も出來るのである。そしてその換羽は啻に換羽そのものを目的とするのでなく、羽毛に新裝を凝らして元氣をよくする一方、躰力、卵巢の休養と營養の期間を與へるものである。この事を詳しく論じる暇はないが事實は明かにこれを証明して居る事を記憶して貰ひたい。

鶉の換羽は一回は秋季に行はれる事が多いが、他は何時と定まつた事もなく、秋のとても一定した時季に於てされる譯でない。それで等しく換羽すると云つても自然的に來るものと人工を以て促す場合とある。その何れでも可いやうなものゝ、仝じくば人工的に行はせる方が便利であると云へる。

自然的に換羽を開始するのを見たならば、一時飼料を劣下して營養を少なくする事が換羽に對する第一の仕事である。それには先づ夜飼ひを廢し、その後三日目位から餌を少しづゝ弱くして三四日で三分餌位にして了ふ。さうするとドッと一時に羽毛を落すからその半分位換羽した時を覗つて夜飼ひを始め、翌日から又餌を强くして三日目にはもとの六分餌とするのである。これによつて新羽は勢よく發生し、早さは十日間遲くも二週間で完全に換羽を終り、直ちに產卵に取りかゝるものである。一週間で終ちせるやうにも出來ぬ事はないが、餌の加減をさう急激に變化さしては却て不良

の結果を來すを免れないであらう。

鶏は人工で換羽させる方が可いゝし又熟練家は何れも人工でして居るのである。人工法は前記の、自然の換羽が初まるのを見てする事なく、任意の時季に右の如き餌の加減をしてやればそれで宜しい。只夜飼ひを止め、餌を落しても鳥渡換羽を始めぬ事もあるから、鶏の様子を見つゝ毎日一分位づゝ弱くして二分餌位まで落すものと思へば可い。大抵それで換羽するものである。

換羽を行はせる時季は一回はなるべく秋季にし、その前後約半年を隔てて他の一回を行ふものと定めるが可いであらう。そして卵の需要の少ない時、孵化を行はぬ時抱を選んですれば甚だ便利である。

◆脂肪が乗り易い。その注意

鶏は非常に肥満易く、脂肪が乗り易い。此の特性は鶏の發育の可い事と必然的關連して居るもので、とにかく肉が附き易く成育の迅速を語つて居るものであるが、一面産卵の鹿馬々々しく多いのも此の消化吸収の作用が多いからである。

併しその脂肪も乗り過ぎては産卵を減少し或は抑止して了ふ結果になるのも免れぬ處で、これは雞どても仝樣であるが、鶏には此の過脂肪に陥る傾向が甚しいのである。

産卵中の鶏が過脂肪の爲めに産卵を休止して了ふ事は珍らしくない。甚しきに到つては雛から成鶏に達した雌鶏が何時まで經つても産卵を始めない事のあるもので、これ等を注意して見ると多くは過脂肪の爲めであつて、實に丸々とよく肥えて居る。

鶏が過脂肪に陥るのは云ふまでもなく飼料の關係からである。それで平素注意して脂肪の少ない餌を選んで與へるやうにするので、大豆粉が忌まれるのも脂肪が多いのに原因して居るのである。飼料中の脂肪は前にも云つた通り魚に含まれるのが一番多い。それで余り強い餌を與へると過脂肪になるが、さうかと云つて魚を減じては蛋白質が不足して、魚を與へる本來の目的を達する事が出來ない。それで何うしても魚は

脂肪の少ないものを選ぶ必要があるのである。

既に過脂肪に陥つたならば先づ大豆粉のやうなものは第一に廃し、魚も二三分まで減少して了ふ、夜飼ひも一時中止するのである。かうして一二週間も経過すれば過脂肪を治する事が出來る。

猶ほ過脂肪療法の最良なるものとして推稱すべきは泳浴を行はせる事で、その方法は前項に述べた通りになし、毎日續けて行ふのである、さすれば實に容易に目的を達するもので効ある事それに如くはない。

その他いろ〳〵の方法を行ふが、奇抜なのは肩頸の皮を極めて少し小刀で切つて推すと脂肪が飛ひ出すが、両肩に此の方法を施しそのまゝ飼養すれば間もなく過脂肪を治するものである。

鶏が過脂肪に陥るのは飼料の魚に脂肪が多いからとは云ふものゝ、普通に鰹抔を用ひては過脂肪の鶏の出來る位に強くして恰度産卵に可い。その位の強さの餌でなくては多産は望まれないのである。余り多數の過脂肪鶏が出るやうでは無論餌を弱くする必要はあるが、五七十羽に一羽位のそれは、正に適度の強さにあるものと考へて可いので、濫りに餌を弱くするのは考へものである。但し一割以上も出るやうなれば至躰に少し弱くするのは至當の處置と云はねばならぬ。

◉啼き鶏の餌の注意

啼き鶏には産卵鶏など強い餌を與へなくてもいゝと云ふ事は前に云つて置いた。産卵鶏が六分を適度とし、時に七分位に昇す事もあるのに對して平素は五分餌で充分である。四分餌でも必ずしも弱いとは云はれない。この加減は鶏の調子を見てする事はこれも前に云つて置いた。

併し平素は五分餌か弱い加減とすれば四分餌でもいゝが、交尾をさせる雄鶏、啼き鶏でも種を引く爲め交尾をさせる時分には六分乃至七分餌とするので、大抵産卵鶏と全然にしなくてはならないのである。

啼き鶉の餌が強きに過ぎると聲が甲高くなつて面白くない事はこれも前云つたが、それでなくても余り精力が強いと力一杯、腹一杯に啼いて聲に余音と余裕が乏しくなり、要するに惡聲になるのである。その鶉の持つて居る聲幅の八分位で啼かすと云ふ事は尤も妥當な態度で、人間でも聲樂をするもの、演説その他聲を用ふるものは全力を揚げての發聲は決してしないものである。

啼く鶉は前記の程度の餌で飼つて置けば何時でも啼かす事が出來る。來客抔があつて、その座興の爲めにするもの、又は巾着鶉に仕立てゝ持ち歩いて先方で等、任意の時に啼かす事が出來る。雌鶉のいい啼きを眞似して見せればすぐに鳴くし、その他いろ〳〵の方法で啼く事を覺ゑさすのも興味あるものである。例へば何か樂器の絃を彈いて聞かしたり、面白いのは手を振つて見せたまでも啼くやうになる。それ程鶉と云ふものは人によく馴れ親しむものであるのだ。

◆巾着鶉の仕込み方

鶉を巾着に入れるやうに仕立てゝ諸所を持ち歩くのは好事家のする事であるが、又以て鶉と云ふ鳥が如何に人に親しみ懐くものであるかと云ふ事を語るものであり、仝時に養鶉の眞締に直接に觸れるものであるから特に茲に記して置く事とする。

この仕込みをするには第一に鶉に對して非常な愛憐の情を持たねば駄目である。只手先きや餌でするのでないからで、又仝時に鶉はよく人間の感情をその明敏、宜能を以て知るものであるからである。

それで鶉の仕込みにかゝつたならば第一に場所を出來る丈け靜かにし、且つ少し薄暗くして置く。そして餌は少しく控え目勝ちにして毎回多少空腹を感ずるやうにする事も必要である。

かくて夜間靜かに籠を開いて手の先きで餌を與へる習慣を附け、その後毎晩かうして人に馴れさせる。この飼養法を續ける間は絶對に靜肅を守つて他人を近づけたり、物音を立てゝ少しでも驚かすやうな事があつては可くない。

以上を操り返せば遂に充分に人に馴れ切つて了ふが、その間の態度は前に云ふ通り手先きや餌で仕込むのではないと云ふ事を深く念頭に置き、一寸鵜の方を見るにも眼容を優さしく愛情の感念を持つてする事を忘れてはならない。

かく充分馴れて了へば最早大丈夫で、何も巾着に限つた事はない。肩に止まらせ、懐に入れる等自由目在にする事が出來る。只その扱ひを覺ゐさせるに凡て漸を以てする事で、幾等馴れても急に變な眞似をしては鵜は驚いて了ふであらう。

巾着は底を直經五寸位の板にし、信玄袋の如くにするので、信玄袋でも宜しい。充分に馴れた鵜を、袋の口を充分開いた迄で數回入れ、次で頸丈け出して袋の口を緩く締め抔して遂に馴らして了ふので、これ以上に詳しく説明する必要もあるまい。

昔は印籠の内に入れるやうに仕立てた人もある事は前に記したが、鵜の流行に連れ時き鵜をかう云ふ風に仕立てるのも面白い事ではあるまいか。

四季の管理注意

◆夏は一番困難な時

鵜は常によく肥ゑて居る鳥である故か夏は彼等の一番苦しがる時であつて、爲めに病氣に罹る事も比較的多いし產卵も減少し易いのである。鵜のやうに人工的に飼養される鳥は寒さを防ぐ事抔は實に何でもない。併し暑さばかりは何うしても除きやうがないのであるから困る。

鵜の暑がる容態を見て居ると、暑がるのではなくて寧ろ一種の惡寒を感ずるやうに見えると云つた人があるが、その言葉はよく暑さに苦しむ態を形容して居る。實際寒さを感ずるかの如く、或は病熱を身内に持つかの如き容子である。誠や鵜は候鳥として夏は遠く北の國に暑を避けるものであるものを、三伏の炎暑には耐ゑ難いのも當然

の事と云はねばならぬ。

暑季の困難は啻に鶏が暑さに苦しむそれのみに止まらない。羽虫、羽虱の發生するのも多く夏である。單に暑さに苦しむ爲めに産卵が減少したりする以上に病氣等にも罹り易い、蚊や蟆子等の吸血虫も襲撃して來る。蚊、蟆子抔を防がうと思つて蚊張を吊れば今度は暑さが甚しくなる。風通しが惡くなるからである。とにかく夏は鶏飼ひの尤も困難する時季なのである。

◆乾燥を圖るを第一とす

暑さも只の炎熱はまだしも凌ぎ可いと云はねばならぬ。これに濕氣の加つた蒸熱に至つて苦惱も甚しく、健康に害を與へる事も尤も多いものである。これは雛でも親鶏でも仝じで、雛抔も仝く仝樣、濕氣と熱と一緒に來るのが一番恐ろしい。この蒸熱に會へば直ちに衰弱して斃れるか病氣に罹るのである。

その蒸熱を來す濕氣は器物にも附着して居れば、掃除が不完全で糞が溜つて居る場合にもある。この上空氣の停滯して居るとすればいよ〳〵甚しくなる。要するに乾燥を圖りさへすれば可いのであるが、それには清掃を勵行する一方空氣の交換をよくする事が必要である。

空氣の交換をよくすると云つて濫りに風の吹き拔ける場所に置くのは考へものである、風に直接に身躰を吹き拂はせると云ふ事は凡ての動物に可い影響を與へないものである。無論軟かい風の徐ろに來るは惡い事でないとしてもその軟風でも、長くその中に置くのは愼しまねばならぬ。

要は乾燥を圖る事と、空氣の流通をよくする事と、よき日蔭を與へる事とで、少數なれば涼しい座敷のうちに置けばこの目時は畧々逃せられるが、多數を飼養して鶏舍の設備のある時は炎熱を避けんとして却つて過つた處置を取る事がないではない。

◆炎熱を防ぐ日蔭に就いて

鶏舍を涼しくしやうとして種々の手を盡すのは可いが、簡單な常識を以て判斷する

と却てつまらぬ誤解に陥る事がないでない。前項の風通しの馬鹿によい處に鶏を置いたり、鶏舎の中を風が全く吹き拂つて了ふやうの方法を取つたりするのもその失策の一ッであるが、鶏舎に日覆ひを施すにこれに類した失策をして居る事がある。

鶏舎は奥行きも淺く、棟も低いものと思はねばならぬが、此の奥行き淺く棟も低い舎は氣温の變化に感ずる事が甚しいものである。それで鶏舎建築の項にも述べた通り壁を厚くし屋根を厚くする事が非常に必要で、出來るなら屋根は草葺きとしたいものである。この小さい舎は夏の日光の猛射を受けては耐つたものではないので、舎内は恰も釜中の如き感を與へる事もあるであらう。

この弊害を除く爲めに舎の屋根の上に日覆ひを設けるのは大變善い事である。處がその日覆ひに、屋上から舎の前面に亙つて南京棚、夕顔棚、葡萄棚抔を設ける事のあるのは却て甚しい危險のあるものである。但し屋上丈けに止めるならそれは非常に善い、屋根の灼けるのを防ぐからであるが、舎前も全樣にしては余りに日光の透射が乏しく、爲めに乾燥が非常に不完全になる事があるのである。日覆ひ棚を設ける場合は此の濕氣の多くならぬ注意を忘れてはならない。

◆鶏舎の構造と夏

鶏舎の構造に就いては前に大躰を述へて置いたが、舎の前面は全く開放される事になり舎の背後は最上段の鶏棚の上は全部放開し得る窓となつて居る。これを開けば鶏に直接に風の吹き附ける事なく徐ろに空氣の流通をよく爲し得る筈で、それは凡て臨機應變的の處置を取るのである。

肉用鶏の追ひ込みも各段毎に上部を一尺五寸位は窓として置く方が宜しい。この四の管理上、前章に述べた追ひ込み箱は蓋を金網とし鶏舎の追ひ込み箱を容れる棚毎に奥の壁に通氣窓を設けなくてはならぬ。

鶏舎は夏涼冬暖的の處置の完全に出來るやうにしてあるが、これを活用するのは人である。夏の夜抔は涼しくする一方蚊害も防がねばならぬので障子は紗に張り代ふる

等の必要も起つて來るであらう。而も夜の涼しさの度を過す事もあらうからそんな時にはカーテンを下す等の注意を忘れてはならない。とにかくそれ等は一々筆紙に盡す事は到底困難の業で只讀者の氣轉でするの外はない。

◆有効な避暑法のいろ〳〵

換氣と乾燥と日覆ひの設備とを圖る上に猶は爲すべき事の幾つかゞある。それを次に畧記して見る。

鶉は出來る丈け落ち附かせる爲めに啼き鶉は勿論産卵用の鶉も、換羽期の鶉も、乃至肉用として中雛より成鳥に至る間も凡て余り明るくして飼養しない方が可いので、余りかん〳〵と明るいのはよくない。とにかく人が或る落ち着きを感ずるやうの程度の光線を取るやうに維持する事が鶉の爲めに大變可い。處が夏は余り薄暗いのは濕氣の多くなる原因であり、換氣が惡く、掃除も不行き屆きになり勝ちである。この邊の注意も忘れてはならない。

風が直接に鶉の身躰を吹き拂ふのは大變惡いものであるが、全時に賊風は一層宜しくないので、これは夏も冬も注意せねばならぬ處である。

籠の清掃を怠らぬと共に、彼の鶉の好む沐浴は大變に好い結果がある。普通には一ケ月一回、冬は行はなくても可いが、夏は一週一度の割ですれば甚だ可い。時として毎日行つても可い位である。

餌に青味を充分にする事も鶉の夏の苦しみを助ける効果のあるものであるを知つて置く必要がある。

◆夏の餌の注意

餌の注意も夏は殊に重大なる要項の一つとして敷ねばならぬ。卽ち出來る限り新鮮のものを與へ、又一日分を一度に作ると云ふやうな無精を決してせず、殊に脂肪の少ない良餌を選ぶ事が尤も肝要である。全時に魚は五分以上は成るべく與へぬやうする方が宜しい。五分以上の強い餌は時として鶉を苦しめる事甚しいものである。

夏は多少産卵の減少するは免れぬやうでもあるが、以上の避暑法をいろ〳〵と工夫して行ふやうにすれば、敢て他の季節に劣らぬ成績を擧げるもので、要するに夏は尤も困難であると云ふ事を知つて綿密に飼養すれば可いのである。

猶ほ水は一日數回交換する事を怠つてはならぬ。

◆冬季は鶏の尤も飼ひ易い時

冬は何と云つても鶏の飼養の容易な時季で、元來肥滿し易い丈けに寒氣には強いものである。それに寒さを防ぐ方法は何とでもなる　少數のものは寢塒箱に入れ、塲合に依りては給温しても可く、鶏舎は障子を閉ぢ背面の窓を閉づれば舎内は春の温暖さである。且つ氣温次第では給温する事も容易の業である。

冬は鶏の飼養に困難が少ないと云ふのは、防寒、給温等が出來るからの事であつて寒くても構はないと云ふのでない事は勿論で、寒風に當てたり、賊風のある塲所に置いたり、又それでなくても非常に冷え込むやうな塲所に飼養するのは絶對に宜しくない。出來る丈け温暖にすべきは云ふまでもない事で、さればこそ鶏舎の構造に注意したり、給温したり、又砂台箱に入れ、寢塒箱の用意も必要になるのである。その邊を誤解しないやうにして欲しい。

餌の給與抔に就いても冬は甚だ樂である。即ち一日分の餌を一度に作つて置いても先づは弊害がない。凍りさへせぬ限りはそれでも可い譯である。勿論凍つて了つては可ないし、水の如きも注意して余り汲み置きの冷水は與へぬやうにするの必要はある。

◆春と秋と梅雨季と秋雨

春と秋とにはもう飼ひ易いも惡いもない。實に容易で、平々坦々何等の困難も不思議もないのである。

只初夏の梅雨と、初秋に多い霖雨は鶏に害もあるし、管理上多少の困難を感するものである。併しそれとても鶏のやうな小鳥では處置の方法は幾等でもある。要は清

掃を勵行し乾燥を圖さへすれば可いので、梅雨の時には蒸熱陷らぬやう、秋雨の時には感冒抔に罹らぬやう只それ丈けの注意を施すに止まるのである。

配合と交尾と産卵

◆一雄に配し得る雌の數

啼き鶏抔になると成るべく交尾を爲せないやうにするものである。これは交尾を少し過度すると、直ちに啼き聲に惡い影響を與へるからで、又一方銘鶏繁殖にはいろ〳〵の條件、例へば良雌を得る事の困難抔があるからであるが、産卵鶏になるとさう云ふ憂ひはなく、只成るべく愛の乘るやうに注意する丈けで、從つて配合する雌の數も多くなる。これは經濟上から見ても何うしてもさうなくてならぬ苦である。

處で一羽の種鶏の雄にかけるべき雌の數は何羽位かと云ふに割合に少數であるとも云へる。これは雞抔と異つて鶏は天性上朝夕二回のみ交尾をして居たものであるので家鶏となつても此の傾向を免れぬのと、幾分雌雄に好き嫌ひがあるからである。

それなら何羽位の雌をつけるのが適當かと云ふ事になるとこれは鳥渡一概には云はれぬ理由がある。何故ならば第一に鶏の年齢の老若、躰質の如何等に關係するからで若鳥、强壯なものには比較的多數の雌を附ける事の出來るのは云ふまでない事であらう。

强壯な若雄なれば六羽位までは完全に交尾受精を全うし得るものと考へられる、それ以上の多數は充分完全に行くか何うか今迄の處余り實驗がない。四羽位ならば極めて安全な事は保証出來るのである。

◆鶏の交尾と精卵

種雄は朝夕一回宛の交尾と定めて置けば雄の爲めに安全である。それ以上の交尾も出來ぬ事はないが、躰力を弱らし、遂に無精卵を生むやうになる恐れがないでない。

そして雌は一度交尾をして受精すると一週間位は毎日有精卵を生む事が出來るものである。從つて此の七日間の受精が充分に正確に出來るものとすれば、一週間一回丈け交尾させればいゝ譯で、雄は朝夕二回は交尾可能なるものとして卽ち十四羽の雌にかけ合せ得るのであるが、鶏の交尾は正確に完全に出來ぬ事も少なくない。と云ふのは交尾の際精液を雌の陰門に注入しないで外部に附着せしめたまゝ終る事があるし、その他何等かの理由で全樣の不結果がないとも限らない。とにかく安金なる程度を求むれば三日目には一度交尾を行はせる方が宜しい。そこで多くも六羽の雌を以て適當なりとする所以である。

右の如く一回の交尾は一週間位に亘るものであるから、雄をかけなくなつて了つても七日間は種卵として採收する事が出來るものである。而も啼鶏抔の場合には大事を取つて毎日一回の交尾は必ず行ふ事になつて居るのもこれも無理ではない。

◆交尾の方法と雄の注意

鶏は極めて愛情の深いもので、全時に雌雄ともに好き嫌ひをする傾向を持つて居るこれで雄は必ずかけるべき雌に一定し、濫りに他の雄を持ち來つて配合してはならない、配合して惡いのみでなく、聲を聞かせ姿を見せても面白くないものである。併し多數の實用鶏を飼つては聲迄聞かせないと云ふ譯には實際の處行くものではない。で成るべく他の雄の姿は見せぬやうにし、その代り定まつて居る雄は常にその雌の見ゐる處に置くが宜いのである。

併しこれは實用鶏で、啼鶏には他雄はいよ〳〵近づけては可けぬ。殊に不良なキヤツコロ啼きの雄を何う云ふものか雌は好ひものであるから、附近にキヤツヲロの雄が居ると雌は自分の對手の雄を嫌ふやうな事が出來て來る。

鶏を交尾させるには雄の籠を雌の籠の傍に持ち行き、扉の處を向け合せて双方の扉を開けば雄は直ちに雌の籠に入つて交尾する、交尾が濟めば靜かに雌の籠を手で叩くと雄は自分の籠に歸る。

交尾の正確を期する爲めに手乘せをする事がある。これは雌を捕えて交尾する時の狀態に保持しつゝ雄の前に出すので、雞のシャモの手戴せや、七面鳥のそれと仝樣である。併し普通はそれ程までにするには及ばぬものと思つて可い。

◆近親繁殖を禁ずる事

鶏も亦近親繁殖を行ふの弊害多きは他の凡ての生物と仝樣で、啼き鶏も實用鶏も共に血液の余り近くないものから配遇を選ばねばならぬ。

又鶏は奇妙に幼少の時から一緒に育てられたものと交尾するを厭ふ傾向があるが、これは野生の時に於て近親繁殖を防ぐ自然の妙理であらう。併し家飼する場合此の習性は却て不便を感ずる事もある。これを是非配遇したいと思ふなら暫く遠く離して置いてお互に聲も姿も忘れた頃に一緒にすると都合よく目的を達し得るものである。

近親繁殖は忌むべき事には相違ないが他に適當の配遇のない時には止むを得ずしてこれを行ふ事がある。そんな時には充分に注意して双方に缺點のない强壯なものを選み、その缺點は多少は免れぬとしても、雌雄仝じ缺點のないものとする事は非常に肝要な事である。これ等の條件が行はれぬなら、斷然近親繁殖は禁じなくてはならぬので、無理に繁殖しても希望の目的は達せられぬであらう。

近親繁殖の弊害を緩和する一二の方法がある。第一にはその雌雄を雛の時から異つた遠隔の地方で育てる事で、地味氣候の相異から、その躰質に、その血液に多少の變化を現はすと云ふ事は信じ得る處とされて居るのである。

第二には仝所に飼養するやうになつても飼料を仝く異つたものを與へる事で、即ち一方が米糠に玄米粉に鯖であるならば、他は麩に大豆、蕎麥を用ひ、魚は鮒とすると云つた調子である。この方法も多少の効あるものと信ぜられる。

◆卵の良否と外觀の鑑定

卵の良否は十に飼料に關係して居る。良餌を與ふれば卵も大きくなるし、内容も濃厚になるのは云ふまでない事で、かゝる良卵から良い雛が得られるのも勿論の事であ

る。

若し卵殻が薄いやうであればその卵は腐廢し易いし、孵化の成績も可くない。それが飼料に介殻の缺乏して居るのに、原因するならばその補給を圖り、又鶏躰の衰弱か、らであれば一層の良餌を與へると共に強壯劑としての新鮮土壌を與へるやうにするのが尤も効がある。

實用鶏の卵としては大さ中庸で割合に重く、且つ丈夫であればそれで可いが、嘴きに細かく大小が揃ひ、且つ斑が重なり合はずに明確に分れて居るのである。

鶏になると卵殻の斑にも一應の注意を拂はふ必要がある。本筋の上鶏の卵は斑が割合處が野返し鶏抔でも銘鶏仝様斑の細かいそして重り合はぬものは多いのであるから卵のみを見て直ちに銘鶏の卵だと云ふ事は出來ない事は知らねばならぬ。併し卵殻の外觀の良くないものは必ず銘鶏の卵でない事は確かなのである。

鶏は雛抔と等しく、仝じ雌鶏の生んだ卵は、前と後と大小の差はあつても、形は余程相似たもので、殊に斑は一番よく前後を通じて似るものである。蓋し當然な話で説明するまでもない事であらう。

種卵は一期の產卵を開始する前に交尾せしめるとしても、初めの三個位は用ひぬ事とし、四日目位から種卵に供するが可い。これは受精如何の問題のみではなく、初めの卵は不良なものが多いからである。外見は何等異る處なくても孵化が滿足でなかつたり、雛が弱かつたりするものである。

健康法及び疾病の治療

◆新鮮土と芝草と日光

健康維持法として特別に説くべき事は先づないと云つて可い位である。前來述べた處を正確に實行しさへすれば鶏は健康によく產卵するからである。

併し鶏特有の習性に滿足を與へて、その元氣を強くし、延ひて健康に補益ある方法の

二三を數へるのも無益な事ではあるまい。單に管理上から云へば砂浴沐浴を行はせるのも無論一法であるが、次に記やうな方法も時々行ふが宜しい。

健康法として第一の効果あるものは新鮮な土壌を與へる事でこれは雞抔にも全樣であるが土壌中には强壯劑たるべき多くの物質を含有して鶏の野にある時は常に欲するまゝ食つて居たものである。その健康に益ある事は鮮新土を與へて二三日もすると顏容が活々として啼き聲にも精氣が張り、産卵を止めて居たものも再びこれを初めるのである。

介殼粉（成るべく牡蠣を可しとす）も單純に卵殼の成生に必要なるのみでなく健康を増進する効が著しい。砂を換える度毎に一摘み宛を投入して置くが良い。卵殼の薄くなつた時抔は擂り餌の中に混入して與へる事とすれば大に宜しい。

鶏に野生の狀態を與へると云ふ事はその健康上大効のあるもので、肉用鶏でも産卵鶏でも多數を一群として追ひ込み式に他上に飼ふ事にすれば、他の點に於ける弊害は別として健康上には確かに可い。それで鶏籠の底は抜き差しの出來るやうにして置いて時々、（月に一回でも可い）芝草やその他の草生地に底を抜いて籠のまゝ伏せて置いてやるのである。二時間か三時間もそれをすれば可い。その元氣を増す効の異常なる、新鮮土を與へる場合と敢て劣らぬ位である。

右のやうに芝草地抔に出してやる事が出來ればそれに越した事はないが、それの不可能な場合には青草を一握みづゝ籠の中に推し入れてやるが可い。それでも眼に見ゆる程の大効があるのである。

芝草地に出し又は青草を入れるのは何れも朝のうちが可い。朝露のまだ乾かぬうちにして與るのである。それが又特別に効のあるものである。

日光も鶏の健康上著効がある事を忘れてはならぬ。啼き鶏抔は成るべく落ち着いた生活をさせねばならぬから、余りパッとしたやうに明るい場所に出して置くのはよくないのだが、それでも朝の軟かい日光に當てるのは健康に非常に可いし、朝の日光な

れば鶏の氣分を騷かしくする憂はないのである。

産卵鶏には嗜ゝ鶏程幽暗にして置く必要はない。それで朝のうち丈けは日光を充分に浴せるやうにする工夫をするのは尤も可い事である。但し肉用鶏は早く生長肥滿さして賣り出すべきものであるから日光に當てる必要もない、又日光に當てぬ方が可いのである。

◆鶏の病氣とその豫防治療

鶏には却々病氣が多い。元來健康な鳥で容易に病氣にかゝらぬが、併し病氣の種類は少なくないのである。今その主なるものに就いて概要を説明しやう。

◆〔雛の下痢〕鶏鳥でも罹る事があるが雛に多い病氣である。主に餌の加減から來るが寒暖乾濕の不調和から來る事も少なくない。要は育雛の方法を過つた爲めで、初めは少し赤味を帶びた軟便を排し漸く下痢の狀態が激しくなつて遂に斃れて了ふものである。

此の病氣は傳染力が激しく、一羽出來ると盛んに蔓延するから、赤味がゝつた軟便を漏す雛を發見したならば直ちに隔離し、全時に大清潔法を施すが可い。そして病氣は治療困難であるからいよ〳〵下痢と決定したならば速かに殺して了ふ方が可いのである。

雛の餌には牡蠣殼の粉又は骨粉を混入して置くとその豫防に著効がある。

◆〔寒冒病〕これも雛に多い。要するに寒暖の不調和、濕氣の多い事抔が原因で、副因としては餌が粗惡で躰力が鈍いと罹り易い。寒冒には鼻に來るものと咽喉に來るものと二種あつて何れも粘液を分秘し發熱苦惱して衰弱するのであるが原因は全じである。

病因となるやうな不當の管理を改め、營養を充分にし、猶ほ搗り餌の中に少しの蕃椒を混入して與へると宜しい。水に入れて揉み出すやうにしてやつても可い。

◆〔舌の病氣〕何うかすると鶏が頭を振つて餌を吐き出すやうにし、食量がずつと減

じて了ふ事がある。餌の調製法の悪い時もあるが、さうでない時は鶏を捕へて見るとその舌の尖端が二ッに裂けて居る事がある。これは熱の爲めに出來た鶏特有の病氣である。

少し太い線香に火を點けて注意してその裂けた部分を燒き取つて了へば治癒する。

◆〔食欲の缺乏〕　何の病氣もないやうなのに食欲の不振な時がある。多くは身躰を冷しすぎた爲めで、蕃椒、人參、龍眼肉の何れでも可い、その少しばかりを擂り餌に擂り込んでやるとすつと元氣が回復して來る。暖かくする事云ふまでもなし。

◆〔卵秘病〕　これは卵が陰門に支ゑて出ぬもので病氣と云ふ程のものでないが、鶏は躰格に比して頗るの大卵を産むものであるから時々此の現象を見るのである。これに罹つた時は羽毛の先きにグリスリンを浸して靜かに陰門に挿入してやると可い。牡蠣末を食はすと可いと云ふ説もある。又手を以て靜かに揉み出してやれば大抵出るものであるが、時には内部で卵を潰して了つて出す事もある。それでも可い。

◆〔胃加答兒〕　素嚢中に水が溜り、頻りに水を吐くものである。牡蠣末を擂り餌に混じて食はせると可い。又蕃椒は効あるものである。寒暖及び乾燥に注意する。

◆〔脚の荒れた時〕　石鹼でよく洗ひ、豚の脂肪を塗るか石灰酸軟膏のやうなものを二三度塗つてやると治る。

◆〔糞づまり〕　機械的に肛門は糞がつまるので鶏は大に苦しむ事がある。餌に牡蠣末を混じて與ると可い。又重いのにはオレーブ油を羽毛の先きに附けて數回挿入してやるのである。

◆〔脚の挫折〕　脚の骨又は翼の骨でも折れた時はニワトコの葉を煎じてよく洗ひ、ニワトコの枝を二三本添ゑて折れた部分を正位に直して結び、猶は幾度も煎じ汁を注いで與ると宜しい。これは舊法であるが非常に効がある。又患部には卵の蛋白を塗つて與るのを宜しい。

◆〔鼠害の時〕　鶏が鼠に食はれる事は間口あるもので、そんな時には烏鶏を小豆粒ほ

どに丸め、米糠にまぶして鶏を捕へて呑ましてやるのである。患部を硼酸水抔で洗つてやるのも可い。

◆〔夜驚く時〕　冷水を注ぐと一番可い。夕方寝場に入れる時にする。そして暫く夜飼を中止するが可い。晝間出來る丈け靜寂にすべきは云ふまでもなし。

◆鶏の元氣を回復するには

鶏の健康法、病氣の豫防法は前に述べたが、病氣と云ふ程でなくても元氣の消沈した時、又病氣の前徴として衰弱して來た時の手當てを一と通り云つて置かう。

鶏に牡蠣末を與へるのは大變に効のあるもので、砂の中に投入して與る外、時々播り餌に混入するのは可い事である。殊に元氣の無くなつた時にはその必要がある。

時々塒所を代へ、籠を代へるのもいゝ事である。籠を代へるには少なくとも一週間位は使用しなかつたもの（洗つて置いて）を使ふやうにする鶏は爽快な新鮮味を感ずるらしいやうに見へる。

脂肪の過多から來たものには弱い餌を與へるので、肩の處の脂肪線を極く少し突いた程切つて脂肪を取るのも可い。針で突いて三四回やつても可い。

蕃椒は鶏には限らず家禽の爲めに萬病感應丸的の良藥である。冬抔は時々用ふるが可いゝ、病氣には殊にいゝ。但し健康の時には一週一度以上用ひては可けない。

虫類を與へる事は非常に可い。平素も健康の爲めにいゝが、殊に元氣が鈍つたり、病氣になりかけたりして居る時に可い。此昆虫は何の種類に限ると云ふ事はなく、前にも記した通り凡ての昆虫は皆良いのであるが、殊に裸虫、米の虫、青葉虫、はさみ虫抔は直ちに醫療的の効能があるやうである。何の病氣には裸虫を用ひよ抔とは古書にも出て居る位であるが、とにかく昆虫を用ふるのは平素健康に維持する事から、元氣を回復し病氣を治する効があるのである。

但し昆虫が凡て良いからと云つて消化のよくない虫、毒のある虫もないではない。甲虫類は多くは面くないので、又毛虫類（昆虫の幼虫であるが躰に毛の生えて居るも

の）蜘蛛のうちでは女郎蜘蛛抔は必ず與へてはならぬものである。かう云ふ毒虫や害のあるものは鶏に見せれば大抵食はぬから分るが、とにかく注意する必要はある。

野鶏の捕り方と飼ひ方

◆野鶏を捕る目的（

野鶏を捕つて飼ひ馴らすのも面白い遊戯の一ッである。場所さへ宜ければ隨分多數に獲れるものであるから、只鶏狩りその事丈けでも興味がある。

野鶏は馴らしても產卵は余り多くなく、充分に飼ひ込んで年百顆も產むのは可い方である、併し性質のいゝ野鶏が手に入つたならばこれを家鶏に配け合せるとその雛には强健なものが出來る。本筋の鶏は多產性を持つて居るものであるが、躰質が弱くなつて居る爲めに產卵が多くないので、實用には野鶏との五分又は七分五厘雜血を用ふるが、それさへ血液が古くなり、近親繁殖抔も行はれて系統が亂れて居る。眞に五分とか七分五厘ものとか云ふものはまづ〳〵ないと云つて可い位なので、從つて躰質も劣弱になる事がある、かう云ふ點を免れる爲めに野鶏を利用するのは利益のある方法である。

それには極めて產卵力の强い實用鶏と野鶏と配合するので、その雛は二百以上の產卵力は充分にあるやうになるが、もう一度これに前記の實用鶏をかければ、全く完全ないゝ系統の鶏が得られる。とにかく鶏の實用的價値を改善する爲めに行ふべきもので、米國の七面鳥が今日の優良さに達し、躰量の如きも普通種の二三倍以上に上ると云ふのも野生七面鳥の血液を巧みに注入した結果なのである、

◆鶏を捕るには霞網を用ふる

鶏は前にも云ふ通り暖かい乾燥した高原の芝原抔に尤も多く降りる。併し郊外の畑等にも時には降りるもので注意すれば發見する事が出來るが、短かい草の生ゑた草原

地等を一番好ひものである。

鶉の降りるのは嘴さ聲を聞け附けたりして知る事もあるか、靜かに草原を歩き廻つて、鶉の糞を發見するが可い、併し余り人里に近い處でなければ春秋には各所の草原に大抵鶉は降りるものである

鶉が降るやうであつたならばカスミ網を一方に張つて二十間余の處から棒抔で叩き立てると急ち網にかゝつて了ふ、これは夕方にやるのが一番可い。鶉は雉子抔と等しく下飛びをするもので、卽ち飛び立つて下の方を横に一直線に飛ぶのである。そして雉子抔より遙かに小さい丈けに下飛びと云つても地上二三尺の處を飛ぶので、殊に夕方には低く飛ぶ、雲雀抔も仝樣である。

又鶉の降りる處を見附けたならばその周圍に數間を離して網を張り、その中央に寢轉んで鶉笛（銃砲店に賣つて居る）を吹くと多數の鶉が忽ち飛び出してかゝつて了ふ

猶はそんな場合には糞のある附近に藁束を二三十束も立て、その間に地上に穀物を撒いて置くので、すると鶉が一層寄つて來て藁の中を寢塒にするから、四五日を經て網で被せ獲りにしてもよく、前記の如く笛で誘ひ出しても可い。

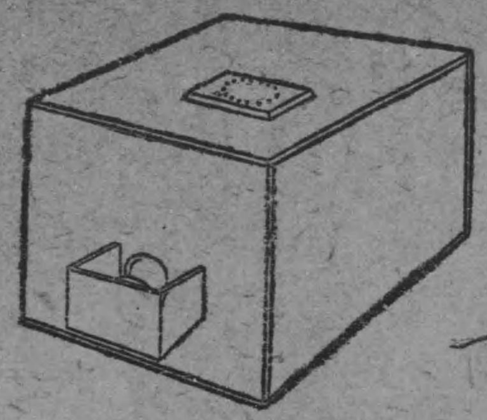
鶉は頗る大膽な横着な鳥で人が近づいても容易には立たず、立つ時には足下から不意にする事雉子のやうであるから、二三度位探ねて近づいたり、藁を立てたりしても塒を代ゑるやうな事は余りない。只、或る一定の時季を過ぎて了ふと他の地方へ渡つて了ふから、鶉の降りる時季には注意して機會を逃せぬやうにせねばならないのである。

◉野鶉を馴らす法

野鶉は初めは人を恐れて荒れ廻り容易の事では餌にも附かないが、方法次第で雜作もない事でもある。元來鶉は人に馴れ易い鳥なので、その大膽な性質から來るものと思はれる。

それで野鶉の飼ひ馴らしには古くから暗飼を施すので、その方法は四方及び高さと

も八寸位の板箱を作り、一方に鶉を入れる口を設けるが、そこには板の戸を附けて置く。天井には一寸角位の孔を明け光線を採るのでそこには紙を張つた木框を蓋にして外方の見えぬやうにする。



野鶉を馴らす箱

猶ほ側面の中央より少し下の所に一寸位の圓い穴を明け、その外部は圖のやうに構つてそこに餌壺を置くのである。

鶉は此の箱に入れられて初めは驚いて荒れ狂つたりするが、やがて到底出られないのを知つて觀念して靜かになる。そしてひそかに前方の孔から外方を覗つて見るとそこには美味そうな餌があるのでついつい一嘴食つて見る。もうかうなれば占めたもので數日を經れば普通の鶉籠に移してもさして騒がぬやうになるのである。併し籠に入れてからも數日間は成るべく人を近づけぬやうにし、且つ少し薄暗い場所に馴れ切つて了ふまで置くのである。

充分に籠に馴れ人が餌を與へに行つても驚かぬやうになれば、間もなく雄は啼き初めるし、雌は產卵を初めるものである。その以后は普通の飼養法として可い。

野鶉は何うかすると非常に肥滿して、爲めに容易に啼き始めず產卵しない事もあるが、さう云ふ時は前に述べた脂肪を減ずる手當てを加えれば可いのである。

(五) 鶉の孵卵法

種卵に就いての注意

◆孵化用卵の撰み方

前章にも述べたが、鶏の卵は頗る大小不揃ひのもので、仝じ母鶏の産んだものさへ可成り大小の差がある。種卵としては大形のものを撰み、強壮の雛を得、そして次代に向つて益々大形の卵を産むやうにしたいが、實際にはさう簡單には行かない。

何故かと云ふと余り大形の卵は孵化の成積が惡い事が多い。その理由は明かでないが、とにかく生物の進化には急激な變化は適者生存の理に合しない理由はある。卵を大形に進めるのでもその通りで、進化は漸を以てしなくてはならないのであるから、現に生産される卵の中の余り大形のものはよくない結果になるのであらう。（少し言ひ足らぬがこれ位にして先きを急ぐ）

それで種卵とすべきものは大さ中庸と云ふよりは余り大形のものを除いて成るべくは大きな重いのを撰ぶが宜しい。

卵殻の厚さは、孵化の成績に大關係のあるのは勿論で、薄い殻の卵は種卵とする價値はない。薄い殻の卵を多く産むやうであつたならば早速搗り餌の中に牡蠣殻の粉を混入してやるが可い。

卵殻の色も注意せねばならぬ點で、地色はなるべく白いものを撰ぶやうにし、斑もなるべく小形で大小が揃ひ且つ圓形をなし、そして重なり合はぬものを撰ぶのである本筋に近い鶏程、卵殻の地色が白く、斑が細かくて紋様正しく、且つ重なり合はぬものである事は前述した。野返し鶏でもかう云ふのが幾等もある事は勿論だが、一面には地色は褐色を帯び、斑は大小定まらず、連續して居るものが遙かに多いのであるから、かう云ふ種卵のみを孵化して居ると、鶏の家禽的進化は容易に望まれず、少なくとも野鶏の性情を維持し易い事になるのは疑ふ余地はあるまい。鶏の改良を圖るには親鶏の撰擇ばかりでなく、その種卵にも大に注意を拂はねはならぬ。

その他種卵に異常の形狀、色彩などあれば概してこれを避ける事にする方が安全であると云へる。

◉種卵の狀態と種卵の良否

種禽に就いては既に詳しく述べた、茲には單に種卵の良否に關係した方から述べて置く。

餌の良否に依つて種卵には多大の優劣が出來るものである事を第一に知らねばならぬ。卽ち良餌を與ふれば大形で重く、内容も濃厚な卵を產み、粗餌なればこれに反するのである。これは雞でも全樣であるが、鶏の如き躰量の十分の一と云ふ驚くべき大卵を驚くべき多產するものには、此の傾向は一層著しく現はれるのは蓋し當然の事と云はねばならぬ。

卵を多く產出するには蛋白質物、卽ち鶏の餌では主として魚を飽食させねばならぬ魚さへ飽食すれば植物の餌は少々不良粗惡のものでもよく多產するものである。此れは雞や七面鳥でも全く全じである。

處が卵の良否と云ふ段になると何うしても植物性の餌を、充分注意して選擇せねばならぬので、これを粗惡にすれば、よし多產しても、否、多產する程卵は輕く、内容物は薄くなつて了ふものである、この事は必ず記憶せねばならぬ。

又種鶏が余り肥滿すると無精卵を產み易くなる。雄は交尾不完全になり、雌はまだ休產まで到らずとも受精が完全に行かず、何れも無精卵となるのは全じである。肥滿の狀態を適度に保つ事が必要である。

余り强い餌を與へて濫りに多產させるのもよくない。實用鶏は一日一卵を保たせてよいが、啼き鶏になると、必要な丈け產ました後は余り連續產卵はさせないものである。それ等の加減は飼料に依つて容易に左右し得る事は前章を參照すれば分る。

雄でも全樣で、實用鶏は六羽位は充分配合出來るが、啼き鶏は種卵を取る時の外濫りに交尾させないのである。勿論、啼き鶏の種卵は實用鶏程に多く採るものでないので、それに配する雌も自然少ない、實用鶏でも余り多雌を配すると無精卵が出來、弱雛の出るのは云ふまでもない事である。

◆雌雄の配合と雛の雌雄

卵の形狀や、色彩で雛の雌雄を鑑別する事は今の處まだ不可能である。併し配遇法に依り、又飼養法次第で余程自由にする事の出來るのも確である。

雌雛を多く出すには第一に雄を出來る丈け强健に維持する事で、第二には余り多くの雌を配合せず、なるべく毎日一度づゝは凡ての雌に交尾を與へるやうにする事である。この二ッは雛に雌を多く得る尤も確實な方法である。

その理由は靈能的感應力に依って、强壯な雄を有し且つ毎日交尾して雄の不足のない時には次代に雄を多く出し、その不足を補ふの必要がないからである。これは雛には殊に顯著に現はれる事實で、又凡ての動物が全樣なのである。

又雄は必ず若いのを用ふる。鶏では若い雄は概して强壯に交尾力も頗る强いものであるから、これも矢張り前記の理由に合して居る。そしてその効果も確實である。

母雞を使用する孵卵法

◉鶏卵孵化にはチャボが第一

鶏の卵を孵化するには普通チャボの母雞を使用する。本筋の啼き鶏及び多產系の鶏は巢に就かぬので、雞の母雞又は人工孵卵器を使用するの外はない。その母雞にはチャボが一番可いのである。何と云っても鶏の卵は三旬內外に過ぎぬのであるからチャボ以上の雞では到底安全に孵化を全ふする事が出來ない、鳥骨雞・地雞とチャボの雜種抔を用ふ事もあるが、完全な事を望めばチャボに如くはないのである。又現在には見られないが、ペキンバンダムとチャボとの雜種は、彼の名古屋コーチンが絶好の孵化育雛雞であるやうに良い巢雞になるであらうと思ふが、自分もまだ實は實驗しないのである。

チャボの受玩雞であるは云ふまでもないが、都會地抔では此のチャボの良種は却々高價に賣る事が出來るもので、その良種を飼養すればそれのみでも相當の收益を見る事が出來る。チャボには各種あるが何れも母雞として仝じ事であるから、各種の純粋なるものを飼養するが宜しい。他の雞なれば產卵及び肉に利益を見る事が出來るが、チャボでは只鶏の孵卵用として卵肉は只自家用となるのみであるので、而も多數のチャボを飼ふ場合にその費用は決して少ないと思はれぬ。その費用を出す爲めには愛玩用の良種を飼養して種禽卵を賣るやうにするのが一番可い。

◆巣雞の良否鑑定法

巣雞の良否を鑑定するには、雞卵孵化の場合と別に異る處はない。併し初心の人の爲めに一と通り説明して置くのも蛇足ではあるまい。

第一には健康無病なるものを撰擇する必要がある。弱雞はその孵化の中途で巣立ちしたり、躰温が不充分で孵化しても雞が弱かつたり、滿足な成積は得難いものである

第二は矢張り病氣のうちではあるが、脚の疥癬に侵されぬものでなくてはならぬ。脚の疥癬と云ふのは、雞の脚脛の鱗に初め粉を吹き出したやうになり、段々荒れて來て遂に脚脛は二三倍位の太さに膨張し、牡鶏の殼の如くに荒れ立つもので、原因は疥癬虫の寄生であるが、誘因は不潔から來るものである。

此の病氣は必ず鶏にも傳染して意外の損害を與へる事があるから母雞は絶對に使用してはならぬ。

次に悪癖のある母雞も必ず避けねばならぬ。人に馴れにくい、性質の荒々しい雞は何うしても卵を破る事が多いし、甚しいのになると卵を食ふ事抔は珍らしくない。それのみでなく、何しろチャボの卵の二分一か三分一の卵から出る雛は呆れ返る程小さいもので、男の拇指の頭程よりなく、それでよくも鳥の形をして居たと思はれる位であるから、何うかすると虫けらとでも思ふのか食つて了ふ奴があるのである。それで出來る丈け性質の温良なものを撰擇せねばならない譯である。

◆孵卵の準備は斯くする

鶏でも雞でもその孵卵法は全く仝じなのであるが、何と云つても少し大きな蠶豆の如き此の小卵の孵化には自ら多少の注意が特別に必要になつて來る。

巣は密柑箱位の箱が可い。その箱の底は全部板でなく、一寸巾位の板を一寸隔て位に釘着したのが一番可い。これは冬は差し支へないが夏は母雞の余り熱心な抱卵の爲めに温度が過ぎる事がある爲めで、雞でも鷄でも仝樣である。夏の孵化歩合の不良なのはこゝに原因して居る事が頗る多く、余り熱心な雞は夏は却て不成績になるものである。この事實は曾て凡ての養雞書著述家が説きもせず、又知りもしなかつた處らしく思はれる。

箱の中には先づ軟かい藁を入れて巣の形を作る。藁は打ち藁か綿のみを用ひ、一尺位に切つて用ふ方が始末がいゝものである。

この巣の形が最も重要の點で、注意と熟練とを要する處である。第一に、巣の底は余り凹形にせず、却て少し平にするので、直經約四寸五分の圓形を作るやうにし、極く僅かに、即ち周圍よりも中央が六分位低くなるのが一番いゝ。その平らな底の周圍から四十五度の角度で急に傾斜を附けるのである。

以上凡て藁にて形を成り、その上にヅック（外國米の袋）で藁が現はれぬやうに被ふて了ふ、箱の二倍位の大きさに切つて、よく推しつけてヅックを入れ、周圍は箱の縁に釘で止める事にすれば可い。

これで巣が出來たが、氣候の乾燥する頃にはヅックの下に青草又は青菜を並べて置くと可い。但し地上に直接に置く場合、その地面が乾燥して居れば青草の必要はない何れにしても箱は地上に置くのが一番いゝのである。

◆母雞に卵を抱かせる迄

孵化に着手する前に、巣離を先づ巣と卵に馴れさせねばならぬ。それには不用の鶏の卵を二個程を巣に入れ、巣離を移して二三日孵化中と仝樣の管理を施して置く、巣

雛を移すには夜間が可い。そして成るべく幽暗く、静かにして置くのである。

チヤボに取つても鶏の卵は余り小さい爲めに少しは異樣の感を抱く事があるらしいそれで成るべく一度でもチヤボやその他の雞の卵を孵化した經驗のないものを選ぶ必要があるが、とにかく孵化に着手させるまでの二三日の間も鶏の卵を抱かしてこれに馴れさせるのは大變に可い事である。もし鶏の卵の不用なのがない場合には少し小さいがラムチ壜の玉でも代用にならぬ事はない。粘土で擬卵を作つてやれば好都合でもある。粘土でこれを作るには、粘土の種類は別に問はぬ。充分に練つて粘力を強くし（水を加へつゝ練る）鶏卵の形にして乾燥すれば可いので容易なものである。只余り水分の多いまゝであると飲裂するから練るうちに適度に水分を減少させてから作るが可い。

かへてよく巣に落ち着いた頃を見計らつて矢張り夜間孵すべき鶏卵と交換して了ふ。

普通の大きさのチヤボが抱き得る鶏の卵は二十個から二十二三個であるが、初心のうちは必ず十六七個までにして置くが安全である。それでないと外の失敗がないとは云ふ事が出來ぬ。

◆孵化中の巣雞の管理法

抱卵せしめる前、巣雞を巣に馴れさすべく擬卵を與へてある時から巣雞の管理は始まる。その管理は出來る丈け規律正しくすると云ふ事が第一の要件で、午前十時前後に時刻を一定して巣雞に餌を與へ脫糞せしめる丈けの事であるが、それ丈けの事を必ず規則的に行はねばならぬ。

巣雞は伏籠で飲食せしめるが宜しい。午前十時の定刻に巣雞を出して伏せ籠に入れ先づ餌を與へ。餌に飽き、脫糞も終つた時に水を與へるのである。

餌は玄米が躰力を維持する上に一番可い。營養も多く、消化も可く、巣雞も好むもので、孵卵中は蛋白質よりも含水炭化物、即ち主として澱粉が必要なので、それに脂

肋があれば尤も適當して居る。凡ての點から玄米が尤も良好で小麥より遙かに可い。

玄米の中には零々玄米粒位の妙の粗いもの小石の極く細かいものを二割位混入して置く。これは消化補助物として非常に効がある。

伏せ籠に出して餌を與へると暫くして脫糞する。凡て巣雞は初めに大きな糞を枇し次で二回粘つた小糞塊を排泄するもので、此の三回の脫糞を終つてから巣に戻すが可い。二回目をせぬうちは勿論、二回目でも排枇せぬうちに巣に戻すと巣を汚す事があるのである。

飲水は前に云ふ通り餌に飽き、三回目の脫糞をして、そろ〳〵嘴を磨いたり、身振ひを初めたりする頃に與へる。そして適當な頃を見計らつて巣に戻すが可い。

巣に戻すのは注意して靜かにせねばならぬが、別にひつかしく考へるには及ばぬ。両手の掌手で雞巣を輕く抑へつゝ卵の上に靜かに。併し出來る丈け手早く置いて、すぐ巣雞の頭を一寸手で抑へて下を見せ、卵に注意を拂はせるが宜しい。只入れて蓋をし乍ら了ふのは余り感心しない。

巣雞に卵に注意を向けると直ちに抱かんとして巣の中で身を廻したりするから、その時蓋を施して三十分計りは放任し置き、充分に靜まつた後、靜かに巣雞の身躰の周圍を撫め、翼や羽毛や脚部の外方に卵の出て居るものがあれば、取つて巣雞の胞の前に置いてやる。すると巣雞は自らその卵を嘴で掻き込んで了ふ。濫りに巣雞の腹下に手を入れ抔せぬ方が可い。

猶ほ云つて置かねばならぬのは、巣雞は抱卵前に一二度砂浴せしめるのは可い事であるが、抱卵中は斷じて砂浴を許してはならぬ事で、羽毛を冷し、離巣時間が長きに過ぎ、且つ卵に微塵を附着せしめて、孵化に障害を與へる抔の弊害があるものである。

◆孵卵中の巣と卵の管理

鷄の卵は極めて小さい。小さい丈けに殼も薄いので破損し易い、巣雞の撰擇と孵卵

中の管理を靜かにする事とを忘れてならぬと仝時に巣の構造、凹形の程度をよく〳〵注意し、卵が重つたり、周圍の卵が中央のものを壓迫したりする事のないやうに作らねばならぬ。これ等の弊害は凡て巣の底の面積が狹いか、凸形が深かすぎるからである。

又底の面積が廣さに過ぎると卵は翼外に逸出する事がある。適度の廣さが必要であるが何れかと云へば廣い位にして抱卵數を少なくする方が初心の人には安全な道であると云はねばならぬ。

鶏の卵の殼が薄い事は他の不結果を伴ふ事がある。卽ち卵内に濕氣の不足で、孵雛及び人工で鶏卵を孵化する人の失敗の大なる原因を成して居る。それは殼が薄い丈けに卵内の水分が蒸發し易いからで、雞卵、鴨卵と仝じと考へて居ると不成績に陷るを免れぬ。

濕氣を與へる爲めにツツクの下に青草を敷き中途二三回交換してやる事、なるべく巣箱は濕氣ある地上に置く事、孵化の前に二回程輕く噴霧を行ふ事等を忘れぬやうにする。

鶏卵は小さいから巣雞の食事中に冷え易い。巣雞を巣から出して先づ餌を與へたならば、卵の上には綿を被ふて置くが可い。座蒲團よりは綿の方が遙かに可い。此の注意は殊に冬季に於て肝要である。夏は孵化の半頃からはもう被はぬ方が却て宜しい。

巣雞が飲食中に、巣の中の卵を靜かに手で掻き変せて周圍のものは中央部に、内部のものは外方に入れ換えるやうにする。雞卵抔でも無理に多數を抱卵せしめる場合は此の注意は必要であるが、鶏卵では殊に數が多いから、巣雞の自らする丈けでは不完全なるを免れぬ事があるからである、但しさのみ丁寧にするにも及ぶぬ。

◆害虫の驅除と孵卵中の衛生

巣雞に害虫が發生すればその軀力を衰弱させる事は勿論で、最初からその注意は忘れてならぬ處である。殊に孵出の時に當つて害虫が居て雛に移ると、思はぬ失敗に歸

する事がないとは決して云はれない。

先づ第一に巣雞を巣に移す前、平素の飼養上の産卵箱に居る間に、羽毛の間に除虫菊の粉を振り込んで、寄生して居る羽虱を殺し盡して了ふ。巣雞を巣に置いたまゝ片手で羽毛を逆立てつゝ、片手で振りかけてやるのである。これで羽虱に取れて了ふ。

羽虫（糞虫、わくもとも云ふ）は普通鶏や雞の躰に寄生するのでなく、その飼養場の柱、壁抔の間隙に潜んで居て、主に夜間眠りに入つた時分に出て生血を吸ふので、元來蜘蛛の種類である。そして巣雞でも巣箱の底抔に隠れて居るが、巣雞は常にヂッとして居るから、その出でゝ活動するのは夜間には限らないのである。

羽虫（糞虫、わくも）を防ぐには初めから羽に附着するものゝないやうに注意する事、巣を此の害虫の移つて來ぬ場所に置く事。夏は一度位は是非巣を交換する事が必要で、猶ほ巣藁の中に除虫菊粉を振りかけて置けば大に宜しい。一旦その發生を見た時は直ちに巣を換へ、巣雞の躰に除虫菊粉を振りかけるを羽虱を駆除する場合と等しくする。

巣箱を置く場所は靜かで幽暗いのを第一の條件とするが仝時に衛生的方面からも考へて置かねばならぬ。即ち多少の濕氣があつて余り乾燥せぬ地上なるを要すると云つても、甚しく濕潤なる場所は勿論不健康的なるものとして避けねばならぬ。

次に煙などの來るのは尤も宜しくない。日光の直接に當るのは第一の條件に反するものとして、風の吹き來るも禁物である。

犬猶、小供抔を近附けてならぬのは云ふまでもあるまい。

◆雞卵中は檢卵を怠るな

孵卵に取りかゝると數日を經て檢卵を行ひ無精卵を除くのは誰もする事であるが、その後の檢卵の必要な事、成積に大關係のある事を知るものは割合に少ない、併しその必要で重大な注意を要するものである事は第一回の檢卵に勝るとも劣るものでない。

鶏の檢卵法として別に異る處もないが、鶏卵には褐色の斑があるので一寸鑑別が困難なのは事實である、併し斑に卵殼面に在り胚種は卵内に活動して居るので甚しく不便を感ずる程の事もなく、殊に鶏卵は卵殼が雞より薄いから大して困難と云ふ程の事はないのである。

一抱卵後四日目の晩にはもう明日に胚種の發育せる狀態を見る事が出來る。五日目となればいよ〳〵それが判然として來て如何なる初心者にでも分るやうになる。その方法は靜かに卵を取て氣胞のある鈍端を上にし卵が巣にあつた時のまゝ上面を上に向けつゝ、檢卵器の檢卵孔に充てて透見するのである。胚種は常に置かれた卵の上面に浮くやうになつて居るから、檢卵器に持つて行く時に不用意に轉倒して了ふと判り惡くなる。

此の時無精卵は新鮮卵と全く全一で、熟練した眼には、卵黄が既に腰が低く、卵外から見れば大きくなつて居る事が分る丈けである。これに反して精卵は卵黄が余程廣がり、その中央部に胚種が黑く發育し、それから幾本かの血線を分出して居るのを見るであらう、もし檢卵器の檢卵孔が水平でなく餌になつて居れば、卵黄と胚種とは少し上の方に矢張り浮ぶやうに移動するものである。又少しく横に廻轉するやうに振つて見れば胚種の動搖するのを見る事が出來るから、胚種を發見するに一層容易である斑が幾分邪魔をして居るから鶏卵では動搖せしめて見る注意が一層必要である。

かくて無精卵を除去して了ひ、後三四日を經て再ひ仝樣にして檢卵するが、此の時は胚種は大に發育し、卵黄は殆ど卵の上面一杯に擴がつてその周圍は色が濃くなつて居る、そして血線も太く長く、數も多くなつて居る。

二回目の檢卵の目的は要するに死卵を除くにある。死卵は卵黄が精卵程に擴大せずその色も一躰に淡く胚種は、血線と一緒に固つて濃く或は淡き鼠色に不規則な形狀を呈し、血線は死んで間のないものは只血が濁つて太く、分派する細い血管が消滅して居る丈けだが、早く死んだものは全部が消滅して胚種に集つて汚色を呈するから外觀

は前記の如くなつて了ふ。その中間のものは胚種の周圍に環を畫いて赤色を呈して居るのである。その環は不規則ではあるが、續いて居るものもあり、切れて居るもの、半分位に孤形を畫くもの抔死后の時間に依つて差違があるのである。これらの死廢卵は無論除いて了ふ。

十二日目頃に三度目の檢卵を行ふ。この時は卵内殆ど暗黑を呈し、一寸判定に苦しむが、判定に苦しむやうなのは大低精卵で、死卵は暗黑が淡明るく、その鋭端の一層明るい部分に血線を認める事が出來ず、見ても前回の時の死卵全樣不明瞭で濁つて居るのである。精卵はこの部に幽かに血線を認めるが、それは見にくいとは云へ活きくとして明確である。

以上三回の檢卵を四日目毎に行ふ事とし、初心のうちは第一回を五日目にしてもいゝが、雞卵でも四日目には充分に判るものであるから、鶏卵は一層よく發育し、胚種を見る事が出來るのである。

檢卵が孵化の成績に大關係があると云ふのは、無精卵、死卵に精卵の有つて居る溫度とを奪ふものであるからで、爲めに精卵を弱くし、遂に死に導く傾向が驚くべきのがあるのである。

●孵化に際しての管理と注意

鶏の卵は滿十六日即ち抱卵後十七日目に孵化して雛になる。此の際、多少の注意を必要とするのは矢張り余り卵も雛も小さくて危險が多いからである。要は母雞の爲めに蹈み殺されるやう。時として食はれぬやうにするので。その要領は矢張り第一に靜かにする事と、幽暗くする事とである。靜かにして母雞を驚かすやうな事さへなければ、危險は余りないと云つて宜しい。

孵化に際しては卵殼は非常に脆弱になつて居るから、孵化して雛の出づるに從ひ大抵は母雞の腹下に押し潰ぶされて、遲れた卵の孵化の邪魔になるやうな事はない。それよりは母雞　蹈み殺されるのが一番恐ろしいのであるが、抱卵數が少なく、そして

初心者では寧ろそのまゝにして置く方が却て安心でもある。

併し危険は何分多いから、成るべく孵化するに從ひ一羽二羽づゝでも取り去つて假母器に收容するのが普通となつて居る。そして全部孵化するを待つて今一度母雞に返し、一夜間靜かにその腹下に寢かすのは雛の爲めには大變いゝ事である。併しそれとても母雞には續座をさせ又は母雞に抱かす事が危險と思へばそのまゝ假母器に止めて差し支へはない。

育雛器、假母器　構造は後章に述べるが、此の際はとにかくその溫房内を適溫にして雛を入れ安眠せしむれば可いのである。

十六日目になると卵内には既に鳴聲を聞き、早くも卵殼に啄傷を生ずるものもあるその時母雞には平素と全じ時刻に餌を與へ脱糞せしめて可いが、十七日既に孵化したものがあれば、第一に孵化の樣子を見定めるので、一二羽が孵化して居る丈けなら朝成るべく早く餌を與へて了ひ、もし半數孵化して居る場合には全部の孵化までそのまゝとする方が可い。

何にしても出來る丈幽暗と靜穩を保つやうにし、雛を取るにも余り明るくはしないで靜かに母雞を取り出し、抱いたまゝで雛及び卵殼の大きい分丈けを拾ひ捨て、手早く母雞を返すのである。

◆孵出を人工にて助ける方法

何と云つても鶏の卵は小さいから孵化に際して蹈み破られたり雛を推し殺されたりする恐れが多い。それを防ぐ爲めには前記の管理法と注意とを完全に行ふの外はないが、猶は昔から行はれて居る一法がある。

それは鶏卵に啄傷を生じ、その啄破が凡そ半分位になつた時に卵を取り出して假母器又は少しく溫暖を與へた場所に置けば容易にそして安全に孵化する事が出來る。手の掌が冷たくない人は両手の掌に被ふて居ても速かに孵化を終るのである。

右の如くする時假母器又は溫度を與へるに百度少し上ある位で充分で、高ひよりも

低い方が安全である。

鶏卵及び鶏雛は頗る強健で、右の如き方法で容易に孵化するが、余り早きに失するのは假母器等の温度さへ充分適當して居れば差し支ないがさうでない限りは危險あるものと思はねばならぬ。

又早くから母雞の腹下を出した卵には濕氣の供給が肝要で、萬一にも乾燥すれば不結果になるから、卵を置く温房には潤れ雑布等を多いと思ふ位に置くが宜しい。何にしても啄傷が半分位に達して居ればよく目的を達する事が出來るであらう。

◉母雞を數回續けて使用するには

卵が孵化して了ふと直ちに巣を掃除して新しい卵を更に與へる。これを續座と云ふのである。その際巣は古いのを用ひ二三日を經てから交換するなり、敷きものを換へるなりするが良い。突然に卵が冷たい新卵と代り、巣も變ると巣立ちする恐れがないでない。

鶏卵の孵化は十七日で全く終つて了ふ。これを五回位續座せしめるのは寧ろ容易の事である。名古屋コーチンの母雞で雞卵を孵化せしめるに四五回、鶩卵は三回半位半と云ふのはおかしく思ふかも知れぬが、初めて抱卵後百日位で巣雞を立たせ、別の巣雞に恰度その時孵化途中にある卵を與へるので、母雞使用の孵卵家が普通に行ふ所である）は容易に出來るのである。チャボに鶏卵を孵化せしめるにも全じく四五回は誰も行ふものである。

併し可成り長い時日に亙るので、チャボのやうな小軀の雞は多少衰弱も強いから平素の管理法には相當の注意を拂はぬと、此の長時日の抱卵に耐えず、巣立ちして了ふ事もないでない。然うでないまでも二三回で巣を離さねばならぬやうになる。

續座せしめる巣雞の管理法と云つて別に異つた事もなく、前項述べた通りとし、只別に焼き鰹の中位の大さのものを一二四づゝ毎日差し餌にしてやると可い。差し餌をするには雞を左の腋の下に抱き込み、右の手にて嘴を開いて咽喉まで靜かに差し入

れるのである。右の如くすれば充分に躰力を維持する目的を達する事が出來る。

續座をする度びに巣雞には砂浴を一度充分にさせ、その他凡て初めて卵を抱かしめる時と仝樣の方法をしなければならぬ。

猶ほ最後に特爭して記して置きたい事は、前にも云ふ通り、チヤボは鶏卵の余り小さいのな多少異樣の感を起すやうで、以前數回も雞卵を孵化したものには時として鶏卵を好んで抱かぬものさくあるのである。それでなるべく以前に雞卵孵化の經驗のない巣雞が可いが仝時に一度鶏の卵を孵化するに用ひたものは大切に飼養し、次に巣に就いても決して雞の卵抔は孵さしめない方が利益である。これは記憶すべき價値あるものである。

鶏卵人工孵卵法

■人工孵卵は鶏に尤も有利

鶏を飼養する人が一番困難を感ずるのは、雛を孵化するに不便な事である。チヤボの巣雞は却々手に入り兼ねるもので、自分で十數羽乃至數十羽も飼養せぬ限りは到底絶ゑず巣雞を有つて居ると云ふ譯に行かぬ。それが爲め鶏の飼養の仝國中一番盛な東京の如きは、チヤボの巣雞は時として一羽三圓以上に上る事がある。三圓でも手に入りさへすれば數回の續座人に依つては七八回も||を行はせるので、決して高いものではないが、その三圓の巣雞が却々手に入り難いので何れも困難を感じて居るのである。

そこえ行くと人工孵卵器の至便は、孵卵の時季と場所とを選ぶ事なく、鶏の卵のある限り、四季を問はず、都會なると山間なると思ふまゝである。

併し鶏用の孵卵器と云ふものは現今まだ余り多く用ひられて居ない。鶏卵には鶏卵の特性があつて、それを充分に了解して居らぬ限り成績の可い孵卵器を作る事は出來ないのである。而も鶏卵の性質を知つても人工孵卵器なるものに特別の經驗研究のな

い限りは鶏用に限らず成積の良い孵卵器が出來る筈がない。

現今鶏用孵卵器なるものは二三種類あるが、何れも不完全至極のもので、一として實積を擧げるものゝないのは殘念な事である。併しそれも無理はないので、普通人工孵卵器製造家なるものは純然たる商人のみであつて、何れも外國品の摸造品を商業的に販賣して居るに過ぎず、而も自家で使用でもする事か、多くは巣雛抔を用ひて自家用の雛を作ると云ふ淺ましい有樣なのである。さう云ふ連中の作る鶏用孵卵器なるものが又等しく一個の粗製なる商品に過ぎないのは思ひ半に過ぎるものである。

而う鶏の繁殖上人工孵卵器は飽くまで必要で、將來實用鶏の飼養の發展に連れて、益々その必要に迫られるであらう。否人工孵卵器無くしては實用鶏の飼養は發展の余地はないと云つて過言でない。

◆杉浦式鶏用孵卵器要領

鶏用の孵卵器は雞、水禽、七面鳥抔の大禽とは余程異つた特質をもつて作られねばならぬ。

第一に鶏の卵は小さく、從つて胚種の保護が充分でないから、温度の正確を保つ事は大禽以上に緊要である。

鶏の卵は乾燥し易い。啻に濕氣を外部から與へる丈けでは不可で、蒸發を防ぐ事が先づ第一に考へられなくてはならぬ。

凡て今日の孵卵器は一般に空氣を余り多く換流せしめすぎる。これは孵化の成績に決して良い影響を與へるものでないが、殊に鶏にはその害が多い。併し普通の人工孵卵器製作者の不徹底な研究では自分の言ふこの言葉の意味さへ正確に分らぬ位であらう。

鶏用の孵卵器は器内の温空氣を交換して整温するのは絶對に可くない。これを云ふと長くなるから止めるが、とにかく湯温を正るのでなくては危險である。この故に孵卵器は湯温式を可とするのである。併し現今の如き湯銅壺では駄目である。

自分の製作した鶏用孵卵器は一種の湯銅壺であるが、湯の量を整温と外氣に抵抗するに必要な程度に適量を定め、その銅壺から直接に卵に加温するのは危險であるから中間に空氣があるが、普通大禽用の孵卵器の如く大量の空氣は入れてない。濕氣は鶏の巣が地上に設けらるゝに鑑みて下方に砂盆を設け、それに濕氣ある砂を入れる事になつて居る。

自動整温機は無くても充分安全に温度の平靜を保つ構造であるが、猶は念の爲めにこれを備えて居る。その原動子は白銅及び鋼鐵の合製で、金屬製原動子中尤も鋭敏なるもの、全時に液體式の如く容易に破損する憂ひは絶對にないものである。この整温機に依つて湯温を均整に維持するのであるが、他式の如く單純に火力を排出する丈けでなく、全時に冷空氣を湯銅壺内に還流せしめ湯の冷却を速くすると共に平素はランプの火力がその還流管内に籠つて居て保温を助けるやうになつて居る。湯銅壺内の温度が降ればその管内にはランプの火温が充滿して容易に湯温が上るが、湯温が高きに過ぎると、此の管内の火熱は排出されると全時に冷空氣が盛んに通過して湯温を低くする裝置で、極めて鋭敏なるものである。

◆鶏用孵卵器使用法概要

此の孵卵器を使用するには先づ湯を釜にて沸騰せしめ、それを稍々冷却して百十五度位とし、孵卵器の湯銅壺に入れる。孵卵器には硝子管にて湯の適量を知り得るやうになつて居る。

次にランプに點火し、卵臺の上に寒暖計を裝置して扉を閉ぢて置く、やがて寒暖計が百二度を示すを見て、もしそれ以上に昇温するやうなればランプの火力を小さくし温度が容易に上らねばランプの火を大きくする。かくて百二度の温度を保つに適當な火力を先づ知悉せねばならぬ。初心者は一日も二日も費して氣長くその加減を知るが宜い。後々まで非常に利益を受くるものである。

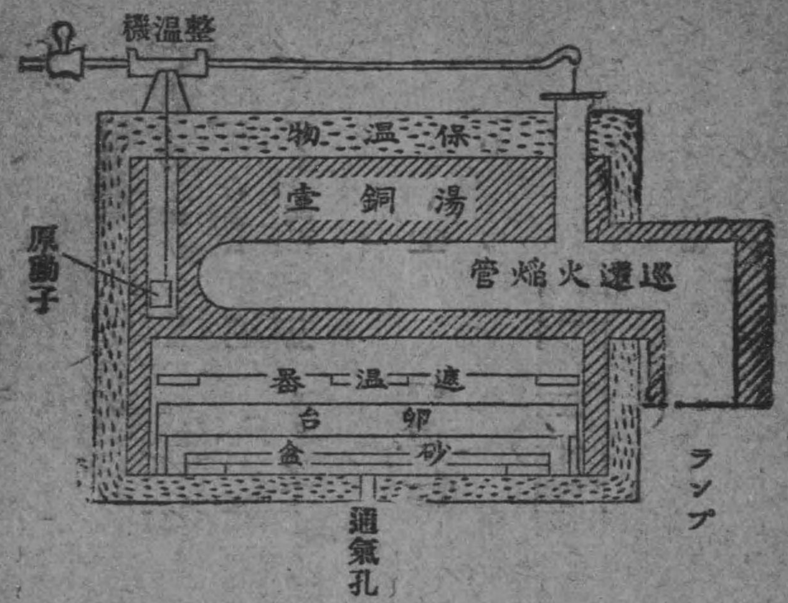
温度と火力が定まらば整温機の整調を行ふので、要するに温度の半度乃至一度位の

上下に依り、整温辨が開閉するものである。先づ原動器に連續する垂直針を挿入して原動子と槓桿とを連結し、次に垂直針上の臼形螺旋を捻ぢ下して槓桿廻轉部の加力點に接着せしめ、猶ほ少し捻ち下して槓桿の前部が上りかけ、辨が少し開くやうにして置く。

かくて温度上れば原動子は下方に膨脹して垂直針を引き、辨は大に開いて湯銅壺内の巡還管内に冷空氣が流通し、温度降れば平素開きかけて居る辨は閉ぢて、巡還管内に火熱が充つるのである。

以上の準備が出來ならば卵を卵台に並べて入れ、寒暖計の水銀球は卵の上に載つて居るやうにする、その後は日々朝夕二回づゝ、卵を廻轉し、整温機と火力とに注意して百二度を保つに適當なるやうに維持しつゝ十六日を經れば健全なる雛が孵化する。その間、定日の檢卵は母雞孵卵以上に必要である事を忘れてはならぬ。

砂盤には入卵の翌日から温氣を與ふれば最後まで特別に給温の必要はない。



新鮮室氣の供給等は器にその裝置が施してあるので、使用上には別に手數は要らぬものである。

十六日卵内に雛の鳴聲を聞けば、藁を五寸位づゝに切り、二三分の間隔にて卵台上に並べその上に卵を置き、啄傷を生ずるを見たならば、その啄傷部を横に向けて置いてやる。

一時間毎位に卵台を引き出しては啄傷あるも調べるが可い。但　卵の冷却せぬやう手早く行はねばならぬ

孵化した雛は少しく羽毛の乾燥す

るを待つて假母器に移し、成るべく靜穩に、幽暗にしてよく疲れを休めるやうにしてやる。孵卵器の内は却々濕氣が多いから永くそのまゝで置くのは雛の爲めに可くない上に他の卵を轉がしたりする弊害も多いものである。凡て卵の啄傷を生ずるのは大部分は側面から初めるもので、それが正當の狀態なのであるから、啄傷部は初め横向にしてやると孵出が容易なるものである。

（六）　鶉の雛の育て方

雛の假母器養成時代

◆育雛成切法の第一の問題

鶉の雛は實に小さいもので、孵化の當時躰量僅かに二匁二三分に過ぎぬが、その强健な事は驚くばかりである。從つて雛の雛を育てるに比較すれば至極容易なもので大抵の初心者にも失敗の恐れはない。只、何分にも小さいので飼育管理が惡いと案外强く影響するのも事實で、その代り順當に行きさへすれば死ぬやうな事は滅多になくずん〳〵育つものである。

育雛成功法の根本と云へば第一に育雛器の完全なる事を要するので、その概畧を云へば乾燥と溫度の適度と、給溫法の鶉の雛に適する事で、此の三ッさへ兼備して居れば可いのである。完全な育雛器と云ふものも現在の處世間に見當らぬが、前章、養鶉器具の中で述べて置いた拙式育雛器は先づ以て遺憾のない成積を擧げて居るのである

かゝ讀者は製作使用される事をお勸めする。

次には飼料の問題で、その適否に依り健康に育ちもすれば失敗に終る事もある、發育にも大關係があるが、これは何れかと云へば寧ろ簡單で、前章に矢張り述べた親鶉

の飼料の中の尤も營養多きものに、魚の量を増加して與へるのである。以下順次にこれを細説しやう。

◆鶏を養成する好期は何時

鶏の雛を育てるのは何時でも差し支へない。梅雨期抔でも雛雛抔と異つて小さい丈けに不潔に陥る事も少なく、清潔乾燥を計ると云つても容易である。又種卵の良否の點から見ても飼料さへ充分のものを與ふれば何時でも良い卵を産ませる事が出來る併しこれを成育後の利益から考へると自ら時季を選擇すべき必要に迫まられる。第一に啼鶏は冬季孵化したものを最良とするので、他の時季のものは到底及ばぬ事が多い。第二には實用鶏の販賣時期で、鶏の安い時に作出しても勞多くして功は乏しい譯である。概して野鶏の捕獲期は安いのであるから、損失までに無くとも薄利なるを免れぬ。

そんな風で育雛成切法としては時期の關係は余りない。强いて云へば夏は害虫も發生し易く、その他の弊害も少なくないのに對して冬は全くこの憂がないのを喜ぶ位のものである。

◆假母器の準備と育雛室

雛が孵化したならば羽毛が半ば乾燥するを待つて假母器に移すので（母雞孵化の場合に就いてはその章に述べた）その後二十時間乃至廿四時間を經て、成るべく午前中に初めての給餌を行ふのである。

先づ假母器の準備からしてかゝらねばならぬ。即ち雛が孵化する一日前に假母器の湯管に湯を注入し、ランプを點けて二三時間を經れば九十度位の温度に昇る。九十度乃至九十五度が鶏の假母器の温房内の適温である。此の時湯管内の湯の温度は百度内外である。

この適當温度を保つに適當した火力を畧々見定めて置く必要がある。

假母器の底にはヅックを敷き、その上に木炭の粉か燻炭を少し振り撒いて置く。そ

して温房に運動場との境界は板で仕切つて置くのである。

此の假母器を使用する場所は普通の座敷でも、鶏舎でも可い。日光が差し込まず、風が當らぬ場所ならばそれで可い。

◆初めて餌を食はせるには

廿時間か廿四時間目頃には雛はもう非常に元氣になつて頻りに温房から出でゝ遊ばんと欲するやうになる。その時初めての給餌をするのであるが、余り早くしては良くない事を知つて置かねばならぬ。廿時間以上は絶對に給餌の必要もなく與へては却つて悪い結果があるのである。

初めて給餌するには餌付板と云ふものを用ふる。長さ四五寸、巾一寸位の板の中央に一直線に溝を作る。溝は巾三分深さ二分位で可い。その溝を横に向けて立てるので倒れぬやうに小さい台を附ける、その溝の中に餌を塗り附けて置くと、雛は餌に附き易いのである。

併し餌附板は是非使用せねばならぬと云ふ程のものではない。普通の鶏雛用餌器で可い。鶏雛用の餌器は太さ五分位の竹を両端に節をつけ、長さはなるべく四五寸に切り、それを二ッに割り、両端には、此の竹の餌器が動揺せぬやう高さ三四分の小さい板を釘で竹の節に打ち着けて置く。但しこの形のものをブリキ板抔で作らしても可い。

何れにしても初めて給餌するには擂り餌を前者は溝の中に、後者は縁の内部に塗附けるやうにし、その上に茹卵の黄味を粉にして振りかけて置けば、雛は初めは黄味を食はんとして直きに餌に附くものである。又餌つきの悪い時には金魚抔の餌にする赤い棒振虫を戴せて置いてやるとその動くのを見て容易に餌に附く。

鶏の雛の中には特別に餌附きの悪いものがあるが、それも棒振虫なら必ず附くものの、棒振虫のない時には少しく困難を感ずる。そんな事には竹の耳掻きに少しの擂餌を戴せて、その雛の眼の前に附き出してやると忽ち食ひ初めるのである。